



コスモ石油グループ コーポレートレポート2014

CORPORATE REPORT 2014



コスモ石油グループの概要

会社概要

(2014年3月31日現在)

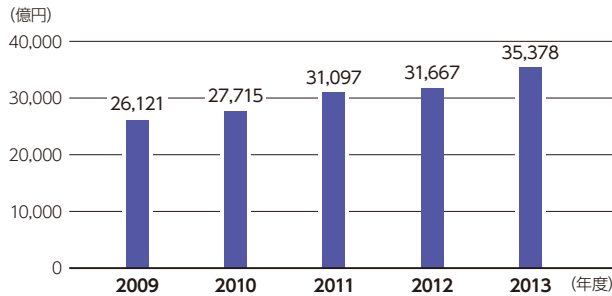
商号 コスモ石油株式会社
 本社所在地 〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号
 電話 03-3798-3211
 発足年月日 1986年(昭和61年)4月1日
 資本金 1,072億4,681万6,126円
 事業内容 石油精製・販売
 社員数 1,837名
 沿革 1986年4月1日 大協石油(株)、丸善石油(株) および両社の精製子会社である旧コスモ石油(株)の3社が合併し、コスモ石油(株)を発足。
 1989年10月1日 アジア石油(株)と合併。

特約店数 241店
 S S 数 3,228カ所(固定式のみ)
 支店 札幌、仙台、東京、関東南、名古屋、大阪、広島、高松、福岡
 製油所*1 千葉、四日市、堺
 油槽所*1 36カ所(寄託油槽所33カ所を含む)
 海外の拠点*2 アブダビ(UAE)、北京(中国)、ドーハ(カタール)、ヒューストン/テキサス州(アメリカ)、ロンドン(イギリス)、シンガポール

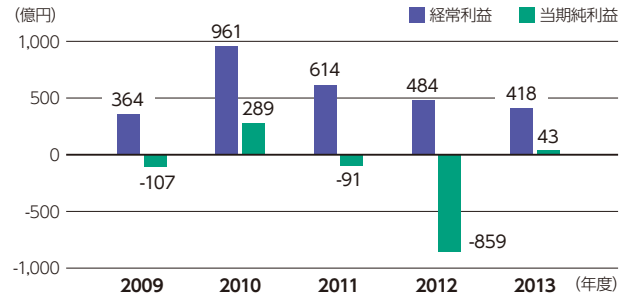
*1 製油所、油槽所は2014年4月1日現在
 *2 海外の拠点は2014年8月4日現在

財務情報

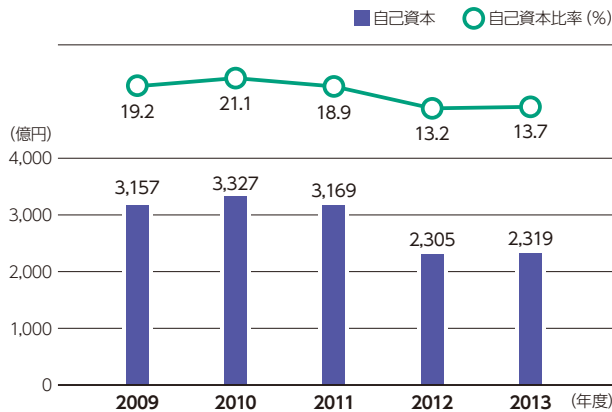
売上高の推移(連結)



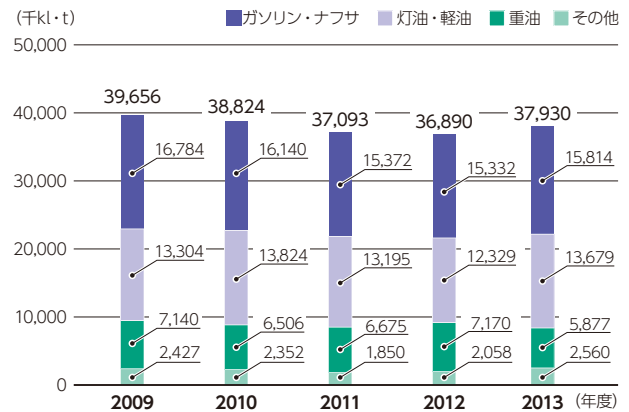
経常利益・当期純利益の推移(連結)



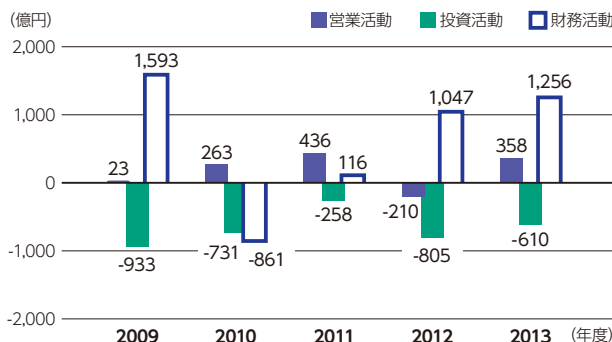
自己資本と自己資本比率の推移(連結)



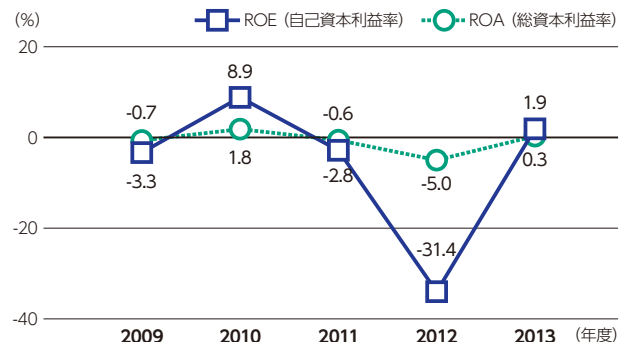
販売状況の推移(単体)



キャッシュ・フローの推移(連結)



利益率の推移(連結)



編集方針

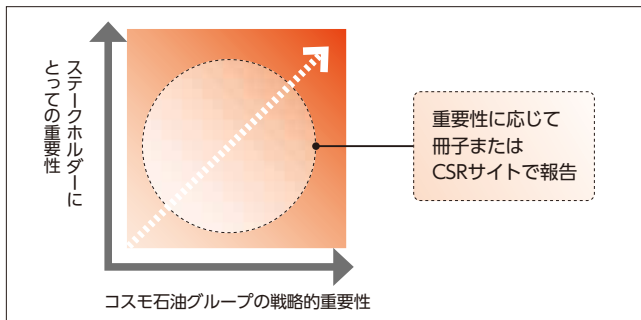
コスモ石油グループでは、2001年度から「環境報告書」、2004年度から「サステナビリティレポート」を発行してきましたが、2010年度よりタイトルを「コーポレートレポート」とし、会社社内としての情報を充実させた総合的コミュニケーションツールとしています。

本レポートの編集にあたっては、GRI (Global Reporting Initiative) の「GRIサステナビリティ・レポーティング・ガイドライン 2006」を参考にしながら、ステークホルダーの皆様からいただいたアンケートなどの意見を踏まえて、ステークホルダーの皆様にとって重要性が高く、かつコスモ石油グループの経営理念や経営戦略、リスク要因と照らして重要と考えている事項について重点的に報告しています。

また、今年度は活動報告編を「CSR活動方針」の重点項目に沿って掲載しています。さらに環境パフォーマンスの集計に関しては、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考にしています。

※ 社員の所属および肩書きは2014年4月現在のものです。

報告における重要事項



コーポレートレポートとWebの関係

コスモ石油グループでは、より多くのステークホルダーの皆様にご理解いただくため、わかりやすさ・読みやすさを追求した冊子版(本レポート)と詳細な事例・データを追加したWeb版の2部構成として報告しています。Web版は、下記コスモ石油公式サイトにてご確認ください。

CSRサイト <http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/>

報告期間

本レポートは、コスモ石油グループの2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)のCSRに関する活動を報告するものです。ただし、一部2014年度の内容も含んでいます。コスモ石油グループの全体像はP3～4の「コスモ石油グループの事業」をご覧ください。

報告範囲 (2011年度の報告から重要な変更はありません)

「CSR活動方針」を共有する25社(P3～4で*のついた会社)が中心ですが、コスモ石油単体のデータあるいは一部の会社のみデータがあり、それらは掲載箇所に脚注で記載しています。

発行時期

発行日: 2014年9月

次回発行予定: 2015年9月(前回: 2013年9月、毎年発行)

目次

コスモ石油グループの概要	1
コスモ石油グループの事業	3
トップコミットメント	5
コスモ石油グループのCSR	7

特集

1 事業継続計画(BCP)の改訂	9
2 海外提携の強化	11
3 コスモスマートビークル	13
4 発電事業への取り組み	15

活動報告

2013年度CSR活動方針の 取り組み実績	17
重点項目 1 安全管理施策の徹底	18
重点項目 2 誠実な業務遂行	22
重点項目 3 人権/人事施策の充実	25
重点項目 4 環境対応策の推進	29
重点項目 5 グループ内および社会との コミュニケーション活動の推進	32
第三者保証報告	34

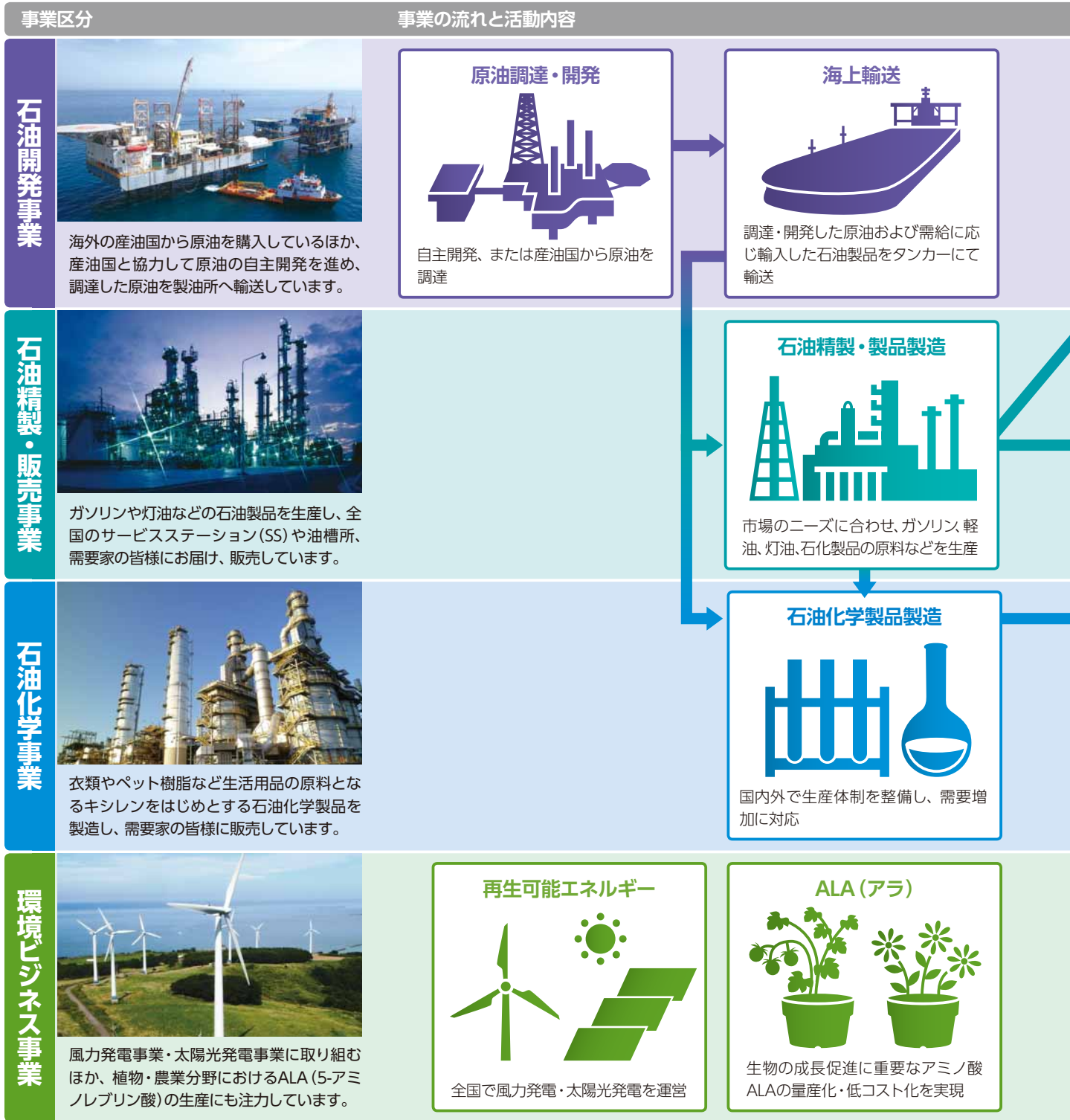
☑ KPMGあずさサステナビリティ(株)の保証対象の内容については「保証対象マーク」で表示しています。

問い合わせ先

コスモ石油株式会社 リスクマネジメントユニット CSR統括部
TEL : 03-3798-3134 FAX : 03-3798-3187 <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

レポートのご感想やコスモ石油グループのCSR活動へのご意見は、下記にお寄せください。
mail : cosmo_csr@cosmo-oil.co.jp

コスモ石油グループの事業



グループ会社一覧

マークの読み方

- ◎…連結子会社
 - …持分法適用会社
 - *…「CSR活動方針」を共有する25社
- 2014年6月30日現在

石油開発事業

- 原油調達・開発**
- ◎コスモエネルギー開発(株)*
 - ◎アブダビ石油(株)*
 - ◎カタール石油開発(株)*
 - ◎コスモアシュモア石油(株)
 - 合同石油開発(株)
- 原油・石油製品の輸出入**
- ◎英国コスモ石油(株)*
 - ◎コスモオイルインターナショナル(株)*
 - ◎米国コスモ石油(株)*
- 備蓄**
- 沖縄石油基地(株)

石油精製・販売事業

- 石油精製・製品製造**
- ◎コスモ石油(株)*
 - ◎コスモ石油ルブリカンツ(株)*
- 国内輸送**
- 東西オイルターミナル(株)
 - ◎北斗興業(株)*
 - ◎コスモ海運(株)*
 - ◎コスモ陸運(株)*
 - ◎コスモペトロサービス(株)*
 - ◎コスモテクノ四日市(株)*
 - ◎関西コスモ物流(株)*
 - ◎坂出コスモ興業(株)*
- 国内販売**
- 千葉コスモ港運(株)
 - コスモルブサービス(株)
 - ◎四日市エルピージー基地(株)
 - ◎コスモ石油販売(株)*
 - ◎総合エネルギー(株)*
 - ◎コスモプロパティサービス(株)
 - 桜橋産業(株)
 - トコスカサポート(株)
 - コスモリフォーム(株)
 - (株)アムテックス
 - ◎コスモ石油ガス(株)*
- ◎東北コスモガス(株)
 ○(株)長田野ガスセンター

石油製品の輸出



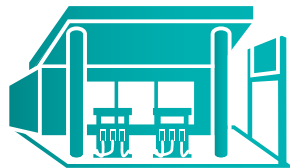
海外での需要に応じ、石油製品を輸出

国内輸送



コストや地域性などを考慮し、輸送手段を選択

国内販売



SS販売では地域特性を重視し、お客様のカーライフをサポート

物流・販売

備蓄



緊急時に備えて、70日分以上の石油を備蓄

研究開発



製造技術の高度化研究、環境配慮製品の開発

お客様・一般家庭・産業など

原油開発の強化

- カタール既存鉱区での増産
- 継続的な有望鉱区の発掘
- アブダビ新鉱区「ハイル油田」早期生産開始 → P11
- CEPISAとの提携 → P11

収益安定化の取り組みを強化

- 供給体制の再構築
- リテールビジネスの強化（コスモスマートビークル） → P13~14

製油所の安全・安定操業

- 事業継続計画 (BCP) の改訂 → P9~10
- 安全管理体制の強化 → P18~19

パラキシレン (PX) 事業の強化

- 韓国におけるパラキシレン事業が本格化 → P12

再生可能エネルギー事業の強化

- 太陽光発電事業に本格参入 → P15
- 風力発電事業の収益拡大 → P16

ALA事業の拡大

- 医療、化粧品、健康食品などの分野への用途拡大

石油化学事業

石油化学製品製造

- ◎コスモ松山石油(株)*
- ◎CMアロマ(株)
- 丸善石油化学(株)
- Hyundai Cosmo Petrochemical Co.,Ltd.

環境ビジネス事業

風力発電

- ◎エコ・パワー(株)*
- ◎波崎ウインドファーム(株)
- ◎銚子ウインドファーム(株)
- ◎段ヶ峰ウインドファーム(株)
- 伊方エコ・パーク(株)
- (株)稚内ウインドパワー
- ◎(株)たちかわ風力発電研究所
- ◎エコ・ワールドくずまき風力発電(株)
- (株)秋田ウインドパワー研究所
- (株)五島岐宿風力発電研究所
- ALA (アラ)
- ◎コスモALA(株)

その他事業

- ◎コスモエンジニアリング(株)*
- ◎(株)コスモトレードアンドサービス*
- ◎コスモビジネスアソシエイツ(株)*
- ◎(株)コスモコンピュータセンター*
- ◎(株)コスモ総合研究所*
- ◎コスモ海洋牧場(株)
- トコスエンタプライズ(株)
- 北ガスフレアスト函館南(株)
- (株)宣信社
- SUMMIT TRADING CO.L.L.C.
- MUSASHI INTERNATIONAL.W.L.L.
- アブダビ興産(株)
- A.D.MARINE.INC
- ◎克斯莫石化貿易(上海)有限公司
- ◎COSMO OIL EUROPE B.V.

コスモ石油グループは一丸となってCSR経営を推進し、
社会から信頼され、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

🌐 コスモ石油グループにおけるCSR経営

2013年度は、5ヵ年計画である「第5次連結中期経営計画」の初年度にあたりました。この中期経営計画の基本方針のひとつが、「CSR経営の推進」です。生活や生命と密接にかかわっている石油製品を扱うコスモ石油グループでは、事業活動を通じたCSR経営こそが、お客様・株主・地域住民などのステークホルダーの皆様の信頼と期待に応える経営だと考えております。

2011年東日本大震災の被災と、2012年6月に発生したアスファルト漏洩事故を受け、安全・安定操業がコスモ石油グループの基盤であることを再認識いたしました。CSR活動方針(2013年度～2017年度)の最重点項目のひとつは「安全管理施策の徹底」です。社長直轄の組織である製油所安全改革委員会の設置や、組織改変によるユニット制の導入によりリスクマネジメントユニットを新設し、安全管理とリスク管理を推進してまいりました。これらの取り組みと現場自身の活動により、製油所における安全体制や安全への意識は着実に向上しました。2014年度は、安全に対する意識を、製造現場である製油所だけではなく、コスモ石油グループ全体でより高め、コスモ石油グループの「安全文化」を浸透させていきます。もうひとつの最重点項目は、「誠実な業務遂行」です。法令やルールに則った誠実な業務遂行を徹底し、すべてのステークホルダーの皆様にその姿勢を示してまいります。

🌐 供給体制について

国内の石油需要は今後継続的に減少することが想定されているため、各製油所の立地や規模など総合的な観点から検討を重ねた結果、坂出製油所の精製機能の停止を決定し、2013年7月に安全に精製装置を停止し、3製油所体制としました。2014年4月に坂出物流基地に移行し、今後はコスモ石油における西日本最大の物流拠点と災害対応の拠点の役割を担い、四国を中心に西日本への供給責務を果たしてまいります。

千葉製油所においては、東燃ゼネラル石油グループの極東石油工業千葉製油所との共同事業の実現に向けて、東燃ゼネラル石油と覚書を締結いたしました。国際競争力

コスモ石油株式会社
代表取締役社長 社長執行役員

森川 桂造

向上のため、共同事業会社の設立、シナジーの創出、両製油所を結ぶパイプラインの設置や設備の最適化などを具体的に検討してまいります。

国内外のパートナーとの提携について

コスモ石油グループでは、企業価値の最大化を実現すべく、事業ごと、地域ごとに最適なパートナーとの連携も実施してまいります。IPIC*1とは定期的な協議を通じて共同事業案件等の多岐にわたる検討を継続し、その検討結果のひとつとして、2013年度は、石油開発事業の拡大に向けてIPICグループのCEPSA*2と戦略的包括提携合意契約を締結しました。LPガス事業では、元売事業で昭和シェル株式会社、東燃ゼネラル石油株式会社、住友商事株式会社と、小売販売事業で株式会社エネサンスホールディング

*1 IPIC : International Petroleum Investment Companyの略で、国際石油投資会社のこと。中東産油国UAE (アラブ首長国連邦) 第一の首長国・アブダビが全額出資する政府系ファンド。アブダビ首長国外の石油、石油化学分野を主たる対象として投資し、自国産原油から派生する石油産業のバリューチェーン構築をめざして設立されました。

*2 CEPSA (セブサ) : Compañía Española de Petróleos, S.A.U.の略で、スペインの総合石油会社。

ス(昭和シェル51%、住友商事49%出資により2008年に設立)と統合の検討を進めております。各事業での収益を強化し、「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」をめざしていきます。

信頼され社会に貢献できる企業に

コスモ石油グループは、2006年より国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しており、人権・労働基準・環境・腐敗防止など基本原則に則った取り組みを推進しております。この基本原則は「コスモ石油グループ企業行動指針」にも通じており、コスモ石油グループ社員のとるべき行動と意識として共有しております。コスモ石油グループの一人ひとりが、安全操業・安定供給という使命を果たすと同時に、社会から信頼され、持続可能な社会づくりに貢献できるエネルギー企業をめざします。

2014年度におきましては、コスモ石油グループ一丸となり、2017年度のCSR活動方針におけるゴールビジョン『信頼に応え、継続して社会に貢献できるコスモ石油グループとなる』の実現に向け、CSR経営をより一層推進してまいります。

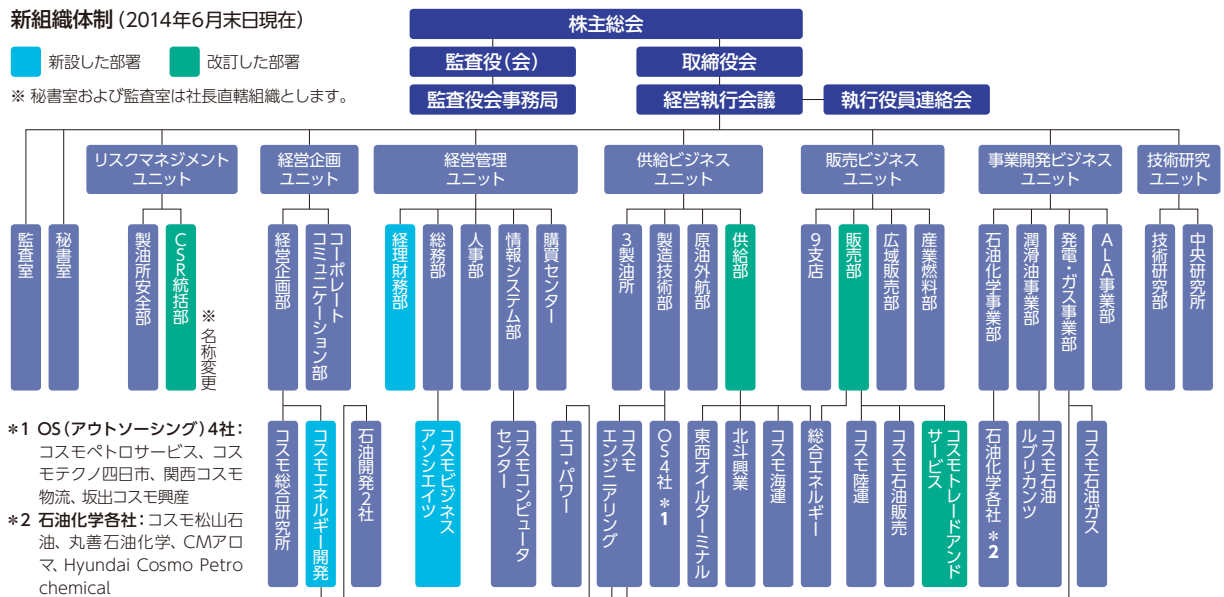
組織体制について

「第5次連結中期経営計画」の深化と迅速な成果向上をめざし、組織体制を見直しています。施策のひとつ「石油開発事業への積極的な投資」については、経営判断をより迅速にするため、2014年2月に同事業を分社化し「コスモエネルギー開発(株)」を設置。6月には管理部門において専門サービス業務の効率化と領域専門業務の強化を促すことを目的に、管理部

門新設子会社「コスモビジネスアソシエイツ(株)」を設立、本社組織から分割しました。管理部門新設子会社は本社各部と同格とし、グループ全体の継続的な業務改革と対象業務の拡大を推進していきます。また、コスモ石油グループのSS販売促進、オートリースに関する機能は、「(株)コスモトレードアンドサービス」に一元化し、サポート体制を強化しています。

新組織体制 (2014年6月末日現在)

■ 新設した部署 ■ 改訂した部署
※ 秘書室および監査室は社長直轄組織とします。



コスモ石油グループのCSR

コスモ石油グループは経営理念を実現するために、「コスモ石油グループ企業行動指針」にもとづいて、連結中期経営計画とCSR活動方針を表裏一体とするCSR経営を進めるとともに、社員一人ひとりが誠実にCSR活動に取り組んでいます。

コスモ石油グループの経営理念

わたしたちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けて持続的発展をめざします。

コスモ石油グループ企業行動指針

第1章 お客様の信頼と満足に応えます

第2章 安全で事故のない企業をめざします

第3章 人を大切にします

第4章 地球環境を大切にします

第5章 社会とのコミュニケーションを大切にします

第6章 誠実な企業であり続けます

第5次連結中期経営計画

(2013年度～2017年度)

「第5次連結中期経営計画」では、石油精製販売事業における収益力の強化を中心として、財務体質の改善を果たし、早期の復配を実現します。さらに、長期的には「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」として、社会に貢献できる企業をめざしています。

CSR活動方針

～ココロと安全の「満タン活動」～

(2013年度～2017年度)

コスモ石油グループは、経営計画とCSR活動方針を表裏一体としてCSR経営を進めるとともに、グループ社員一人ひとりが誠実に業務を遂行し、社会からの期待に応えることで経営理念の実現につながると考えています。

顧客へのメッセージスローガン

ココロも満タンに

社会へのメッセージスローガン

ずっと地球で暮らそう。

調和と共生

地球環境との調和と共生
エネルギーと社会の調和と共生
企業と社会の調和と共生

未来価値の創造

顧客第一の価値創造
個の多様な発想による価値創造
組織知の発揮による価値創造

基本方針

成長の基礎を固め、当社グループの
盤石な経営基盤を確立していく5年間

- 石油精製販売事業における収益力の回復
- 前中期経営計画で実施した戦略投資の確実な回収
- IPIC・HDO*とのアライアンス強化
- CSR経営の推進

長期的に目指すべき姿は、
「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」

中期経営計画の基本方針にもとづく「6つの施策」

- 1 製油所の安全操業・安定供給に関する取り組み強化
関連情報 P9 特集1 事業継続計画 (BCP) の改訂
- 2 供給部門を中心とした徹底的な合理化
- 3 リテールビジネスの強化
関連情報 P13 特集3 コスモスマートビークル
- 4 石油化学事業
関連情報 P12 特集2 海外提携の強化
- 5 石油開発事業
関連情報 P11 特集2 海外提携の強化
- 6 再生可能エネルギー事業
関連情報 P15 特集4 発電事業への取り組み

活動テーマ

- 「安全」と「誠実」(信頼回復)
- 「共有」と「自発性」(水平展開と定着)

2017年度のゴールビジョン
信頼に応え、継続して社会に貢献できる
コスモ石油グループになる

CSR活動方針にもとづく「5つの重点項目」

- 1 安全管理施策の徹底
活動報告 P18
- 2 誠実な業務遂行
活動報告 P22
- 3 人権/人事施策の充実
活動報告 P25
- 4 環境対応策の推進
活動報告 P29
- 5 グループ内および社会との
コミュニケーション活動の推進
活動報告 P32

* HDO (ヒュンダイオイルバンク株式会社) 詳細はP12参照

新たに系列サプライチェーンBCPを構築し、大規模災害時に早期供給をめざしています。

コスモ石油は、石油製品の安定供給を石油会社としての最大の使命と捉え、従来の事業継続計画 (BCP) を見直し、新たに系列サプライチェーンBCPを構築しました。首都直下型地震や南海トラフ巨大地震などの大規模災害発生時における、石油製品の早期供給をめざしています。

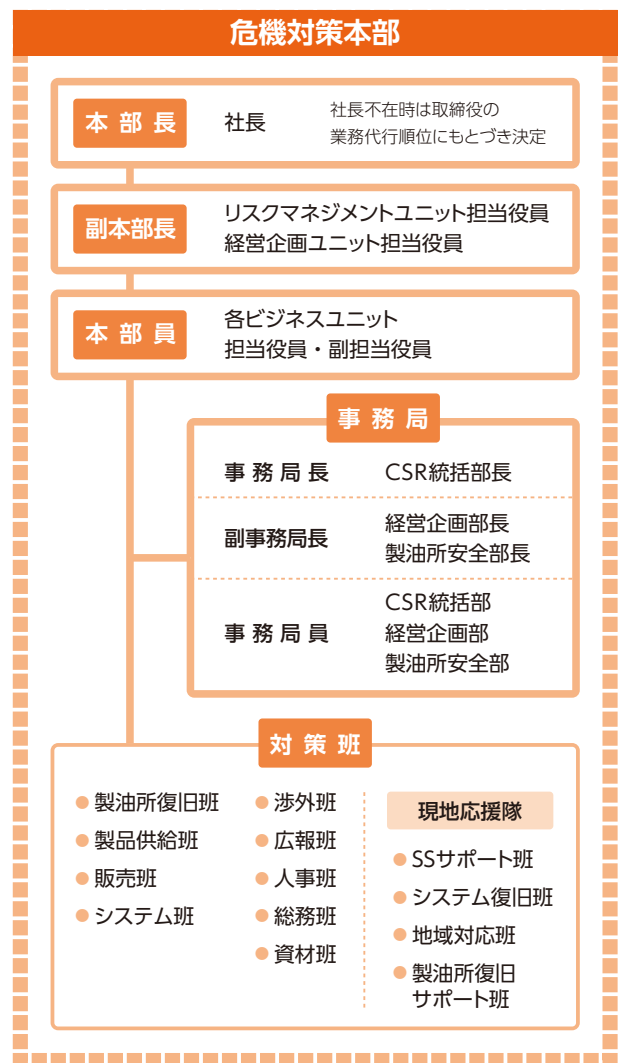
BCPとマニュアルを全面的に見直し

コスモ石油は、大規模災害発生時における業務執行に備えるため、2006年6月に首都直下型地震を想定した事業継続計画 (BCP) を整備し、BCPマニュアルを策定しました。その後、東日本大震災を経験するとともに、2013年6月の組織改定により「リスクマネジメントユニット CSR環境部 (現・CSR統括部)」が設立され、リスクマネジメント体制とBCPマニュアルの全面的な見直しを実施しました。製油所からサービスステーション (SS) までのコスモ石油グループの系列サプライチェーンBCPとして再構築しました。これは、石油連盟の官民一体ガイドラインに則した内容となっています。

石油製品の早期出荷を目標にマニュアル化

今回の系列BCPでは、「首都直下型地震」「南海トラフ巨大地震」発生時の想定を内閣府の最新のデータに統一しマニュアル化しました。これにもとづいて各部門がリスクアセスメントを実施しました。これらを受けて、被災製油所からの出荷再開および被災エリアのSSの営業再開を、可能な限り短期間で実施することを供給目標として定め、これを全社で取り組むべき業務継続目標としました。これにより行動や課題が明確になり各部門が活動しやすくなりました。

BCPマニュアルにおける組織体制





現地対策本部

系列BCPとしての事業継続方針を共有し、
危機対策本部と連携

各製油所

関係会社・SS

- コスモ松山石油
- コスモコンピュータセンター
- コスモエンジニアリング
- コスモ石油販売
- 総合エネルギー
- コスモ海運
- コスモ陸運
- コスモトレードアンドサービス
- コスモペトロサービス
- コスモテクノ四日市
- 関西コスモ物流
- 坂出コスモ興産
- 北斗興業

現地対策本部

個社のBCPとして情報を連携し、
リスクを回避

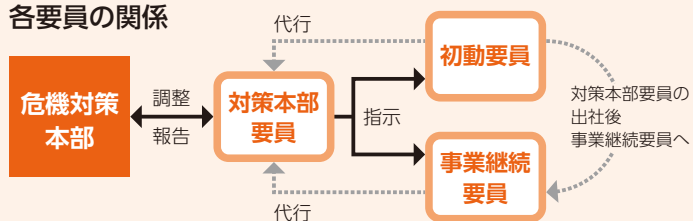
関係会社(個社)

- アブダビ石油
- コスモエネルギー開発
- エコ・パワー
- コスモ石油ルブリカンツ
- コスモ石油ガス
- コスモビジネスアソシエイツ
- コスモ総合研究所

大規模災害時に対応する体制を刷新

コスモ石油では、今回構築した系列BCPにもとづき、これまでの大規模災害発生時に対応する組織体制を見直し、危機対策本部を刷新。危機対策本部は、本部員と事務局、および今回新たに設置した機能別の対策班で構成され、早期出荷の業務継続目標を達成するために、各組織が連携して活動します。中でも製油所復旧班は、本社と製油所が連携し製油所のいち早い復旧を担う重要な組織となっています。また、対策班の各班は、初動要員、事業継続要員をあらかじめ選定し、それぞれの業務を継続します。

各要員の関係



系列BCPとして供給網全体を整備

今回構築した系列BCPでは、2006年に策定したBCPでは対象外であったSSを含め、製油所から油槽所、運送会社、さらにはSSまで系列供給網全体として、事業継続方針を共有し、災害時の供給のために連携訓練などを実施していきます。また、全国で約400店のSSを選定し、可搬式計量機、衛星電話、緊急用発電機の3つの災害対応機器の導入を進め、2014年3月現在、257店で設置されています。



左から
・可搬式計量機
・緊急用発電機本体と
発電機コンセント接続BOX

写真提供：(株)タツノ

「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」
として、海外との連携を深めています。



CEPSAとの戦略的包括提携合意契約の様子

石油ガス開発で新たな
共同事業

コスモ石油は、石油関連事業においてスペインの総合石油会社「CEPSA(セプサ)」と戦略的な包括提携関係を構築し、石油ガス開発などで共同事業の可能性を追求していきます。

CEPSAと戦略的包括提携に合意

コスモ石油は、2014年1月、同じIPICグループでありスペインを代表する総合石油会社であるCEPSAと、相互の事業機会の発掘と事業化に向けた検討を実施するために提携し、中でも、今後も拡大が見込まれる石油・ガス開発事業において共同で新鉱区獲得やさらなる事業拡大に注力することで合意し、戦略的包括提携合意契約を締結しました。今後、両社が共同で新規事業開発を行うことにより、単独では困難な事業機会にも挑むことが可能になります。

原油の自主開発・生産
を推進

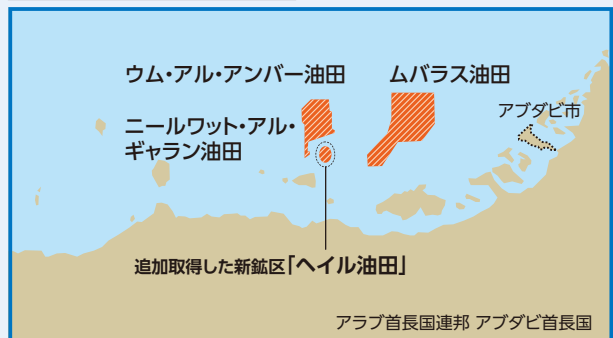
コスモ石油は、40年以上にわたり中東のアラブ首長国連邦の阿布ダビ首長国において、原油の自主開発・生産に取り組んでいます。

UAE新鉱区「ヘイル油田」を開発

コスモ石油は、1967年アラブ首長国連邦阿布ダビ首長国での利権を獲得し「阿布ダビ石油株式会社*」を設立しました。この関連会社を通じて、同国内の3油田で生産を行い日本に向けて出荷しています。2011年2月には現在操業中の油田と隣接するヘイル油田の利権を取得し、開発作業を順調に進めています。新鉱区は既存3油田と同程度の生産量が見込まれ、既存3油田と併せてさらなるエネルギーの安定供給に寄与していきます。

* コスモ石油グループ出資比率63%

阿布ダビ石油鉱区位置図



コスモ石油は、連結中期経営計画の基本方針として掲げた「IPIC・HDOとのアライアンス強化」を着実に進捗させ、海外での事業を積極的に展開しています。

上流開発により、エネルギーの安定供給につなげるとともに、石油化学製品の世界的な需要増に応えることで、企業価値の向上をめざしています。



新規パラキシレン製造装置

韓国における パラキシレン事業が本格化

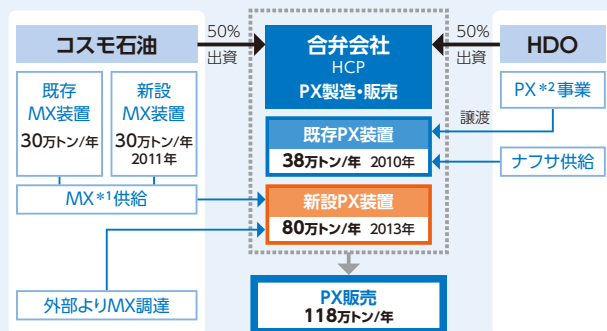
ヒュンダイオイルバンクと合併会社を設立。
2013年1月には生産能力 80 万トン/年の
新規パラキシレン製造装置も稼働し、
世界有数規模の事業を本格的に展開しています。

石油製品の世界的な需要増に対応

コスモ石油は、2009年11月、ヒュンダイオイルバンク株式会社 (HDO) と合併会社 Hyundai Cosmo Petrochemical Co.,Ltd. (HCP) を設立し、2010年2月にHDOより韓国・デサンにある既存製造装置 (生産能力 38 万トン/年) を譲り受け、パラキシレン事業を開始しました。さらに、2011年7月には新規パラキシレン製造装置 (同 80 万トン/年) の建設に着手し、2012年11月に完成。2013年1月より商業運転を開始し、世界有数規模となる合計 118 万トン/年のパラキシレン事業を展開しています。

コスモ石油は、中国を中心としたアジア地域における石油化学製品の需要増加に迅速に対応するとともに、今後も幅広い分野での事業提携や共同事業の可能性を追求してまいります。

大規模な生産体制



*1 MX: ミックスキシレン

*2 PX: パラキシレン

HCP出向 社員の声

コスモ石油が海外に持つ唯一の石油化学プラントであるHCPで、パラキシレン製造装置の運転管理と収益向上のための施策立案を主な業務にしています。HCPが現地に根づくためには、業務を進める上で韓国スタッフの協力が不可欠ですが、国籍・文化の違いが障壁になります。社内の公用語である英語で意思の疎通を図りますが、互いに母国語ではないため、丁寧な説明を心がけないと想定外のミスコミュニケーションを誘発してしまいます。

そのため、韓国語の勉強はもちろん、韓国の歴史・文化に直接触れて、現地スタッフの心象背景を汲み取るとともに心がけています。

当面はHCPを地域最強の石油化学会社にしていくことが目標ですが、先々は異国人、異文化とのコミュニケーション能力を身につけ、未知の世界で活躍できるようになりたいと思っています。



関連情報 P25 グローバル人材育成

奥山 隆史 Senior Process Engineer Hyundai Cosmo Petrochemical Co.,Ltd.

コスモ石油は車の新しい乗り方を提案し、お客様のカーライフを革新します。

「コスモスマートビークル」
軽々カーライフ提案



コスモ石油株式会社
販売ビジネスユニット
販売部
商品開発グループ長*

平塚 隆介

* 所属は2014年3月時点



「コスモスマートビークル」は車の新しい乗り方提案

「コスモスマートビークル」は、コスモ石油グループのSSが窓口になって提供する個人向けカーリース商品です。一定期間車を利用する権利を購入するシステムですが、月々定額でお支払いいただく車両価格には、購入後に必要になる車検をはじめ保険、税金、メンテナンスなどの諸費用が含まれ、カーライフにおけるさまざまな手続きを煩わしいと感じになるお客さまにも気軽に安心してご利用いただけます。さらに燃料油の割引サービスなどもあり、カーリースだけではなく日常のカーライフも幅広くサポート。私たちは「コスモスマートビークル」で車の新しい乗り方を提案し、お客様の豊かなカーライフに貢献します。

コスモ石油グループが一丸となって開発した新しいビジネスモデル

「コスモスマートビークル」は、新規事業の創出を目指し、コスモ石油グループが一丸となって開発した今までにないカーリース商品です。全国各地のSSを拠点として、新車の購入から保険、メンテナンスまで、お客様のカーライフをトータルにサポートするという新しいビジネスモデルでもあります。それだけに商品化に際しては数々のハードルがあり、中でもパートナーとなるリース会社との提携には非常に苦労しました。しかし、開発に携わったグループ社員の粘りと会社の支援もあって、事業化を実現できました。私たちの目標はお客様のカーライフを変えること。そのために「コスモスマートビークル」のさらなる拡充を進めていきます。

「コスモスマートビークル」が 10,000台を突破

「コスモスマートビークル」は、SSを利用するお客様向けの独自サービスとして2011年4月から本格的に展開してきました。以来、お客様のなかでも特にカーライフにおけるさまざまな手続きを煩わしいと感じる女性やシニアの方々から多くの支持をいただき、2014年2月には累計契約台数が1万台を突破しました。今後、サービスのさらなる拡充を図り、お客様のカーライフニーズに貢献していきます。

2014年4月に行われた契約台数1万台突破記念式典の様子



コスモ石油は、お客様に最適なカーライフを提供する「カーライフ価値提供業」への変革を目指し、さまざまな取り組みを進めています。

その中で核となるのが、車の新しい乗り方を提案する「コスモスマートビークル」です。

コスモ石油はこの新しいビジネスモデルを通じて、お客様の豊かな暮らしに貢献します。



コスモ石油販売株式会社
販売・企画本部
リテールサポート部 次長*

吉村 卓一

* 所属は2014年3月時点



新しいビジネスモデルを支える SSスタッフ 3,000 人に研修を実施

「コスモスマートビークル」は、普段お客様が身近に利用するSSを通じてカーリースを提供する新しい形態のサービスです。これはSSスタッフにとっても初めての経験であり、彼らの対応がこのカーライフ事業成功の鍵を握っていました。そこで、事業を本格的に展開した2011年4月以降もしばらくは、全国のSSスタッフ約3,000人に研修を実施。商品知識の徹底はもとより、お客様への提案方法や販売における成功事例などを体系化し情報共有に努めました。それにより、おかげさまで当初の予定を上回るペースで契約台数を伸ばすことができました。

「コスモスマートビークル」で、 お客様のライフスタイルを変えたい

「コスモスマートビークル」は、これまでは主に、車に詳しくなく、購入後の諸手続きを煩わしいと感じる女性やシニアの間で普及してきました。今後は、この商品の認知度をより高めるとともに、コスモ石油のSSでしか購入できないオリジナル仕様の車を提供するなどサービスを深化させ、幅広い層のユーザーにアピールしていきたいと思えます。これからは、車は“所有する”から“利用する”へ。私たちは「コスモスマートビークル」でお客様のライフスタイルを変えていきます。

お客さまの 声



コスモスマートビークルはセカンドカーとして、主に妻が子どもの保育園の送り迎えなどに利用しています。5年ほど乗った普通車の買い替えを考えていたところ、給油で利用していた新柏サービスステーションの店頭で、スマートビークルのチラシをもらったのがきっかけでした。ディーラーとも比べましたが、最終的には「メンテナンスが全部入っている」ことが決め手になりました。給油のついでに必要なメンテナンスを全て受けられるので、メンテナンスが苦手な妻も、手間が省ける私も助かっています。

ガソリンがリッター5円引きになるので、家計にも優しい。軽自動車への乗り換えによる燃費向上とあまって、ガソリン代も大幅に削減できそうです。セカンドカーは、お金と手間をなるべく掛けずに、そんな要望を、スマートビークルが叶えてくれました。

畠山 誠様 個人契約／車種：ダイハツ タント／契約期間：60ヶ月／メンテナンスパック：ゴールドパック

再生可能エネルギー事業を積極的に展開し、総合エネルギー企業をめざします。

メガソーラー事業に本格参入

大規模太陽光発電（メガソーラー）事業に本格的に参入し、日本におけるクリーンで安全なエネルギーの持続的な供給に取り組んでいきます。

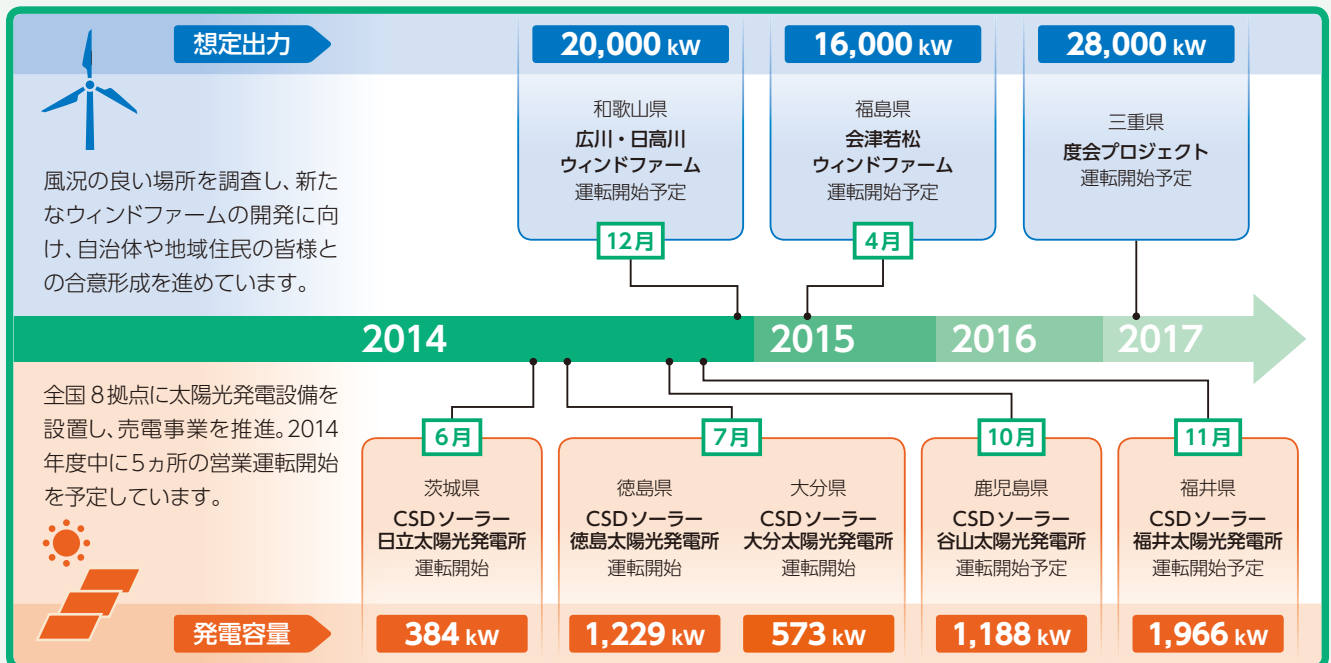


油槽所跡地などを活用した太陽光発電

コスモ石油は2013年3月、昭和シェル石油、日本政策投資銀行と共同でCSDソーラー合同会社を設立し、大規模太陽光発電（メガソーラー）事業に本格的に参入しました。物流の合理化により、不要になった油槽所などの跡地8ヵ所を利用し、発電パネルは昭和シェル石油子会社、ソーラーフロンティア製を使用します。

建設できたサイトから順次商業運転を開始し、8ヵ所のメガソーラー合わせて約24,000kWの総発電規模になる見込みです。

発電設備の建設計画

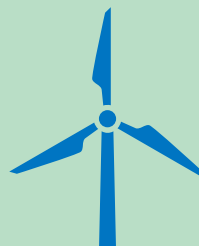


東日本大震災後、社会のエネルギーセキュリティ向上の一翼を担い、
将来の主力電源として期待が高まる再生可能エネルギー。

コスモ石油は、総合エネルギー企業として、風力発電や太陽光発電などの電力事業を積極的に拡大し、
エネルギーの安定供給に貢献していきます。

風力発電事業を拡大

中期経営計画で「エコ・パワー(株)の収益拡大」を掲げ、
風力発電事業の拡大を今後の成長戦略の柱として
積極的に取り組んでいます。



運転

新規ウィンドファームの建設を推進

コスモ石油は総合エネルギー企業としての責任を果たすべく、エネルギー調達の
ベストミックスを進めています。特にクリーンエネルギーとしてますます期待が高
まる再生可能エネルギーに注力し、2010年には風力発電事業で実績のあるパイオ
ニア企業、エコ・パワー(株)をグループに迎え、風力発電事業に本格参入しました。

現在、エコ・パワー(株)が保有する風力発電機は、北海道、東北をはじめ日本全国に
128基、総発電規模は約145,000kWに達しています。さらに、風力発電事業の強化に
向けて新たなウィンドファームの建設を進め、社会の期待に応えていきます。

風力発電のすべてをグループ環で対応

コスモ石油グループでは、
エコ・パワー(株)と、プラ
ント建設を手がけてきたコ
スモエンジニアリング(株)
で連携し、ウィンドファ
ームの立地調査から建設、運
転、保守までを一環して
行っています。



詳細情報 エコ・パワー(株) <http://www.eco-power.co.jp> コスモエンジニアリング(株) <http://www.cosmoeng.co.jp/>

風力発電所のブレード落下事故について

2013年12月5日、エコ・パワー(株)が運営するオロロン風力発電所(北海道羽幌町)の1号機風車において、羽根などの一部部品が落下する事故が発生しました。エコ・パワー(株)では、外部有識者を含めた事故調査委員会を組織し、原因究明を進めるとともに、再発防止策を検討しましたのでご報告いたします。

事故原因

- ① ブレード内部の一部避雷導線が断線し機能していなかった
- ② 落雷電流により他の避雷導線が溶断した
- ③ ブレード内部の圧力が放電により上昇し損傷した

再発防止策

- ① 避雷システムの改修
- ② 点検強化による健全性の確保
- ③ 落雷情報にもとづく運転停止の運用

また、2014年1月31日に発見された北海道・追分ソーラン風力発電所2号機のブレード先端破損・部品飛散事故について、外部有識者の意見を踏まえ、原因究明と再発防止策を検討した結果、本件はメンテナンスの取り組みが不十分であったことが事故原因であることが明らかになりました。今回の事故を重く受け止め、再発防止策を実施し、安全運転の徹底に努めてまいります。

2013年度CSR活動方針の取り組み実績

CSR活動方針(2013年度～2017年度)にもとづき、①安全管理施策の徹底、②誠実な業務遂行、③人権/人事施策の充実、④環境対応策の推進、⑤グループ内および社会とのコミュニケーション活動の推進を5つの重点項目として、それぞれに活動テーマを設け、CSR経営の推進に取り組みました。

2013年度～2017年度		2013年度の主な取り組み状況
重点項目	活動テーマ	
①安全管理施策の徹底	製油所安全改革委員会による製油所の安全管理活動の推進 ➔ P18 (参考 P20)	PDCAマネジメントの強化 管理指標の設定、事業所ごとの課題抽出と取り組み項目の設定実行/進捗評価 安全管理・保安全管理・運転管理の重点施策の実行 運転-工事の引渡しルール詳細化、保全精度向上に向けた資料整備、技術伝承のための若手向けマニュアル整備
	全社安全推進委員会によるグループ全社の安全管理活動の推進	各部門の安全活動の推進 ➔ P18～19 安全環境査察の実施と改善 ➔ P19 委員会の内容と開催頻度を見直し
②誠実な業務遂行	CSR、コンプライアンス徹底・企業行動指針の理解度向上	企業倫理研修会の刷新 ➔ P22
	危機管理体制の再構築	首都直下型地震および南海トラフ巨大地震へのBCP再策定 ➔ P9～10 リスクマトリクスの見直し
	品質保証委員会によるグループ全社の品質管理	品質不具合撲滅策の確実な実行 ➔ P23
	お客様満足の追求	“ココロも満タンに”宣言 ➔ P23
③人権/人事施策の充実	業務の効率化と労働時間の適正管理	年間総労働時間の削減への取り組み(目標1,900時間/年、人に対し、1,966時間/年、人) ➔ P26
	ワーク・ライフ・バランスの取り組み	コスモプロジェクトをスタート ➔ P25、P27～28 関係諸制度の利用促進 ➔ P26
	多様性を尊重した職場づくり(ダイバーシティ)	障がい者雇用率の維持向上(法定値2.00%に対し、2.07%) ➔ P25 高齢者雇用の促進(60歳以上の希望者を100%雇用)
	健康管理への取り組み	Webによる健康管理ツールの提供(定期健診実績の前年比 A判定31%→34%)
	パワハラ・セクハラ撲滅	各種研修による周知徹底
④環境対応策の推進	地球温暖化防止への対応	CO ₂ 排出量削減(製油所運営の効率化等により▲63万t-CO ₂) ➔ P30 風力発電、太陽光発電の事業運営 ➔ P15～16
	環境負荷の低減	産業廃棄物の削減(コスモ石油 0.35%、グループ全体 4.01%) ➔ P29 エコオフィス活動の推進(コスモ石油 コピー用紙▲10.9%、社有車燃料▲13.5%、オフィス電力▲7.8%、グリーン購入89.4%) ➔ P30
	環境貢献活動の推進	コスモ石油エコカード基金(14プロジェクト実施、会員参加のエコツアー開催) ➔ P32
⑤グループ内および社会とのコミュニケーション活動の推進	地域社会への貢献活動	「コスモの森」里山保全活動の実施(千葉、堺、松山で計5回実施) ➔ P32
	社会貢献活動	「クリーン・キャンペーン」を実施(39ヵ所、14,772名参加) ➔ P32
	グループ内外のコミュニケーション活動	各関連会社のCSR推進担当者を集めた「CSR推進連絡会」の実施

安全管理施策の徹底

安全への取り組み

コスモ石油グループでは、2013年度～2017年度のCSR活動方針の最重点項目のひとつとして「安全管理施策の徹底」を掲げています。中期連結安全計画(2013年度～2017年度)のもと製油所安全改革委員会が製油所の安全管理活動に特化し、全社安全推進委員会はグループ全社の安全管理活動を推進しており、各部門で事故や労働災害の撲滅をめざし、安全操業・安定供給を実現していきます。

2013年度 各部門の主な安全活動

部門・対象		2013年度の主な安全活動(一例)
製造部門	4製油所およびコスモ松山石油	<ul style="list-style-type: none"> 製油所安全改革委員会による4ワーキンググループの活動(製油所間共通の実施) 安全環境査察の実施と改善 → P19 コスモ小集団活動および提案活動(製油所ごとにサークルを結成) → P19
	コスモ石油ブリカンツ(潤滑油製造)	<ul style="list-style-type: none"> 作業マニュアルの見直しとマニュアル遵守の徹底 安全教育強化による安全意識、安全レベルの向上と労働災害の撲滅
	コスモ石油ガス(LPG貯蔵・配送)	<ul style="list-style-type: none"> 保安査察、法令遵守査察の実施 社内、特約店に対する保安研修会の実施
物流部門	原油外航部・製品部(製品輸出入)	<ul style="list-style-type: none"> 【原油外航部】・安全会議の開催 ・原油タンカー緊急時訓練 → P19 【製品部】・災害時における海外現地法人(コスモオイルインターナショナル(株))への機能移転
	コスモ海運(海上輸送)	<ul style="list-style-type: none"> 安全訪船活動(合計1,069回) 安全着離機(1・2・3月)・指差呼称(7・8月)キャンペーン実施
	コスモ陸運(陸上輸送)	<ul style="list-style-type: none"> 契約運送会社への現地監査(全75車庫を2年に1回実施) 各種研修の開催 ヒヤリハット20,000件収集およびフィードバックの実施
	油槽所	<ul style="list-style-type: none"> 緊急離機訓練実施 油槽所ごとの要領書の作成
販売・その他部門	販売部(SS)	<ul style="list-style-type: none"> SS工事現場の安全パトロールの実施 SS工事安全フォーラムの開催 SSサインポール一斉点検 → P19 SS地下タンク漏洩未然防止啓発活動
	中央研究所	<ul style="list-style-type: none"> 安全キャッチボール活動の推進 職場安全衛生環境会議(毎月実施)においてKYT4R法を実施
	コスモエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> 協力会社を含めた実効性の高いRKY(危険予知)活動 安全マイスター制度

製造部門の主な安全活動

製油所安全改革委員会の設置

コスモ石油グループでは、製油所の安全・安定操業を経営の最重要項目とし、社長を委員長とした「製油所安全改革委員会」を2013年3月に設置しました。製油所安全改革委員会では主に「安全管理」「保安全管理」「運転管理・人材育成」という3つのテーマに分け、各テーマごとに課題の抽出・分析を行い、仕組みの改善や活動施策の見直し・確認などに取り組んでいます。2013年度は活動の見える化に重点を置き、PDCAがしっかりと回るような仕組みづくりを行いました。今後は、事故を未然に防止するために、具体的な安全活動の推進や体制の整備を進めていきます。

また2013年度より、製油所安全改革委員会の事務局が、各事業所の現場第一線の社員と対話を行う安全キャラバンも開始しました。

安全キャラバン活動

目的	<ul style="list-style-type: none"> 安全に関する活動施策の有効性を確認 安全意識のさらなる向上を促進
活動内容	製油所安全改革委員会の事務局が、各事業所の現場第一線の社員と対話を行う



「安全キャラバン」の様子

安全管理施策の徹底

安全環境査察の実施と改善

コスモ石油グループでは、グループの横断的な安全管理組織である「全社安全推進委員会」をコスモ石油本社内に設置しています。各製油所、本社の各部門、関連会社などを対象に安全環境査察を実施し、2013年度は4製油所を含む12事業所・部門に対し安全環境査察を実施しました。

製油所安全環境査察 2013年度の強化ポイント

- 製油所の査察において、消防法の専門家を査察員に加え、第三者的な視線から、より効果の高い改善・指導を行えるようにしています。
- 従来は事務所ごとに完結していた査察結果の総括を、本社に4製油所とコスモ松山石油(株)が集まり実施しました。課題と解決方法を議論することで、より強固な安全と環境の管理体制につなげています。

コスモ小集団活動および提案活動

製油所では、安全操業・安定供給、競争力強化を達成するため、全職場で少人数のサークルによる改善活動を実施しています。全社発表大会を年一回開催し、各製油所の代表サークルの活動成果を披露しています。2013年度はカタル石油開発(株)からも1サークルが参加しました。



※ 社内では、「コスモ小集団活動および提案活動」の略としてCS活動と呼んでいます。

輸送部門の安全活動一例

原油タンカー緊急時訓練

原油タンカーが中東から日本へ向かう航海中に海賊被害を受けたという想定で、緊急時訓練を実施しました。コスモ石油の専航船の運航会社に協力していただき、被害想定にもとづいた連絡をもらい、都度社内の関係者が集合して情報共有・対応事項の確認をしました。訓練で得た課題を活かし、緊急時の体制を強固にしていきます。



販売部門の安全活動一例

SSサインポール一斉点検

看板類の倒壊・落下を未然に防止するため、2011年7月よりSSのサインポールの一斉点検を実施し、2年間で3,000本の点検および補修・交換に取り組みました。

また、台風等の大型自然災害が発生した場合には、即座に支店を通じて被害状況を確認し、二次災害の未然防止と速やかな復旧を図る体制を整えています。



写真提供：朝日エティック(株)

業界と連携した産業保安に関する取り組み

わが国の石油精製・元売会社における業界団体である石油連盟では、国内の産業保安に関する自主行動計画を策定しています。コスモ石油では、石油連盟の自主行動計画に参画し、石油会社としての社会的責任を果たしていくための取り組みを策定し、実行しています。

コスモ石油が実施する取り組み(抜粋)と具体的な活動内容

対象期間：2013年4月1日～2014年3月31日

自主保安活動の促進に向けた取り組み 【全社的な安全・法令遵守の再徹底】

本社一現場の意思疎通の強化策として、製油所安全改革委員会事務局が現場の社員と対話を行う安全キャラバンを実施。また、各事業所では各製造現場の直長を中心とした保安体制を組織し、自主保安活動を推進しています。

本社の安全管理活動に関する取り組み

社長を委員長とした製油所安全改革委員会を2013年3月に設立し、同委員会を軸に製油所の安全施策の進捗や評価・見直しなどPDCAマネジメントを着実に実行し、安全操業・安定供給の実現をめざしています。

産業保安に関する目標設定

- ・2014年度全社安全方針：『誠実に守るべきことを守る「安全文化」の浸透』
- ・2014年度製油所部門安全目標：『火災、爆発、構外漏洩、大量漏洩、重大労災すべての発生件数ゼロを維持する』

目標の達成状況や施策の実施状況についての調査および評価

全社安全目標から現場レベルの施策まで紐づくよう目標体系を見直し、各現場で行われている取り組み施策について製油所安全改革委員会へ定期的に報告し、評価を実施しています。

経営者の産業保安に対するコミットメント

コスモ石油グループ一丸となって、製油所の安全操業・安定供給の使命を果たし、企業としての社会的責任を果たすべく、これまで以上にCSR経営を推進することで社会から信頼されるエネルギー企業をめざします。(経営者コミットメントをコーポレートレポート等により発信)

産業保安のための施策の実施計画の策定

A. 事故削減に向けた具体策

- a. 腐食等の設備管理的要因
保全精度向上に向けた資料整備などの取り組みを実施。
- b. ヒューマンエラーの防止
非正常作業時の潜在リスク洗い出しを目的とした危険予知ミーティングや作業前の声掛けによる安全意識向上活動を実践中。
- c. 手順書・マニュアル類の整備
技術伝承を目的に若手運転員が理解しやすいマニュアル類となるよう、図や写真の盛り込みや過去の不具合対応例など追記を実施中。

自然災害による産業事故の発生防止に向けた取り組み

- ・事業継続計画(BCP)マニュアルの再構築：首都直下型地震および南海トラフ巨大地震を想定し、製油所から給油所までのサプライチェーンを含む供給網全体を対象に再構築しました。
- ・高圧ガス設備等の設備の耐震性能強化：東日本大震災から得られた教訓および今後想定される巨大地震における被害拡大防止の観点から、優先度順に評価を行い、必要に応じた耐震性能強化を図っています。

B. 教育訓練

危険に対する感性向上のための体感訓練や各種防災訓練の実施、社内外の事故事例勉強会等を実施中。

Topics 2013

千葉製油所LPGタンク新設

2011年3月の東日本大震災により発生したLPGタンク火災で被災したLPGタンク群を、2013年5月に再建し、同年7月より運用を開始しました。新設にあたり、火災事故の原因として、LPGタンクが満水状態だったこと、タンク倒壊で配管が破断しLPGが漏えいして火災に至ったことなどを踏まえ、下記の対策を実施しました。被災を免れた8基のLPGタンクについても、新設タンクと同じ補強を行っています。



事故再発防止策

- 満水状態における耐震設計を自主基準として上乘せ
- 配管設計において可とう性(伸縮の許容力)を確保
- 配管分岐部の距離を可能な限り離すことで独立性を確保
- タンク満水時の配管の縁切り対応を実施
- 散水配管を改善
- 緊急遮断弁の独立性を確保
- 可燃性ガス検知警報盤を設置
- 緊急操作システムを改善
- 地盤改良を実施(液状化対策)

千葉製油所 集合煙突の塗り替え

2011年、2012年と相次いだ事故で千葉製油所は長期間稼働を停止していました。再稼働にあたり、安全・安定操業の誓いのシンボルとして、20年ぶりに集合煙突の塗り替えを実施しました。千葉製油所は中期経営計画の6施策のひとつとして、全体的な経年劣化を改善するため、280億円を投じてリニューアルプランを実行しています。



写真提供: 日本ペイント販売(株)

坂出製油所装置解体工事

供給体制の見直し策のひとつとして、2013年7月に坂出製油所のすべての精製装置を停止し、2014年4月に坂出物流基地へ移行しました。坂出製油所の精製装置は、2年をかけて解体していきます。

日本でも例が少なく、コスモ石油グループとして初めての精製装置解体工事に、坂出物流基地、コスモエンジニアリング(株)は、行政機関や協力会社などと安全体制を何重にも確認した上で取り組んでいます。

VOICE

コスモ石油株式会社 坂出物流基地 オイルターミナル推進課 松本 三津治

解体工事は、2014年6月時点で地上部の約3分の1が終了しました。入社から40年、装置の運転に携わってきたので、解体にはさみじさを感じつつ工事に従事しています。

工事開始当初、解体業者の皆さんが精製装置や事業所のルールに慣れていなかったことで度重なる想定外の行動があったため、元請けの監督や職長、作業員の皆さんにまで事業所ルールの教育・遵守を徹底しました。また、日々の工程会議、主要作業の工事安全対策会議等で十分な協議と情報の共有を図っています。

解体工事では、ガスバーナーを使用した設備の切断作業も多く、油・可燃性ガス等の残存危険物を心配しましたが、事前の残油確認、ガス検知でもほとんど検知されません。こうして解体工事が順調に進んでいるのは、異動・退職していった仲間の一人ひとりが、装置停止後の環境設定において作業の目的、方法を理解し最後までプライドを持って「いい仕事」してくれたからだと感じています。そんな仲間の思いを無駄にしないよう、ゼロ災での工事完遂をめざして業務を遂行していきます。



誠実な業務遂行

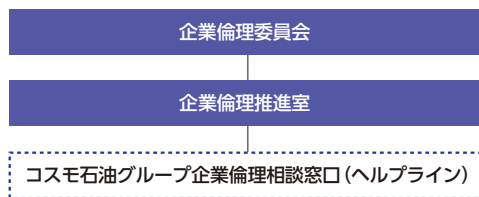
コンプライアンスの推進

企業倫理推進体制

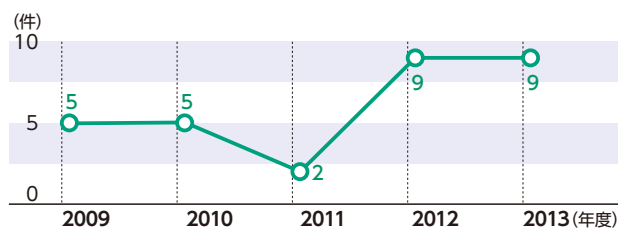
CSR推進委員会の実行組織として、企業倫理に関する基本方針の決定・推進・実施と確認を行う「企業倫理委員会」、推進役となる「企業倫理推進室」を設置しています。

さらに、業務における法令および倫理上の問題を匿名で相談・通報できる仕組みとして、「コスモ石油グループ企業倫理相談窓口」を社内および社外の弁護士事務所に設置しています。相談・通報の内容と対応は、「企業倫理委員会」に報告し、今後の活動に反映しています。また、人事部門内には、セクシュアルハラスメントおよびパワーハラスメントに関する相談窓口を設けています。

企業倫理推進体制図



相談窓口に寄せられた相談件数



企業倫理研修会

コスモ石油グループでは、毎年企業倫理研修会を行っています。

2013年度の研修会は、3つのテーマ・目的として①「個人・組織の倫理観のレベルをあわせる」②「潜んでいる問題への感度を高める」③「指摘し、議論し、正そうとする風土をつくる」を掲げ、従来の聴講を主とした研修から、参加型の研修にて実施しました。コスモ石油グループの日常ありがちな事例を社員同士で討議するスタイルにしたことにより、「自分で考えることで身についた」「理解しやすかった」「他の人の意見が聞けてよかった」と反応も良く、グループ社員の倫理観を高めることができました。



2013年度 企業倫理研修の実績数 (注)

研修名	テーマ	受講者数	研修時間
新入社員	コンプライアンスと企業倫理、企業行動指針、会社の意志決定ルール	66名	2～3時間
新任ライン長研修	コンプライアンス遵守、企業倫理醸成のためのライン長としての役割	29名	1.5時間
事業所研修	トップコミットメント(企業倫理への取り組みに対する所信表明)、ヘルプラインの仕組み、CSR経営と企業倫理、ありがちな企業倫理事例の討議と共有	3,250名*	1.5時間

* 開催回数は、全36事業所、73回になります。



お客様満足への追求

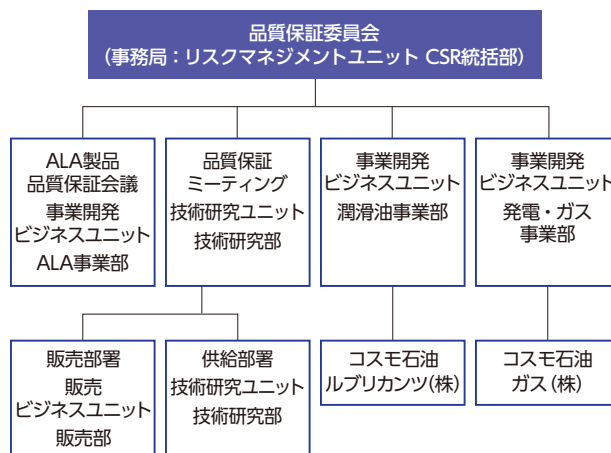
石油製品の信頼確保

品質不具合撲滅策の確実な実行

コスモ石油本社内に「品質保証委員会」を設置し、全社一体となった品質保証体制の確立を図っています。燃料油においては、活動テーマとして「安全・安定供給のための施策の徹底(品質不具合の防止)」と「製品トラブル発生時の迅速・適切な対応」を掲げ、安全管理活動に取り組んできました。

残念ながら2013年度は、コスモ石油グループの系列SSで荷卸し時の人的ミスによる混油事故が発生しました。迅速な初動対応により大事には至りませんでした。同様の事故がグループ内で再発するのを防止すべく、「積込・荷卸作業手順確認書」の使用を徹底し配送先との相互確認を強化しています。

品質保証委員会の体制



“ココロも満タンに”宣言

コスモ石油グループでは、SSで迎えるお客様に「心地良さ」「安心感」「信頼感」を実感していただくために、「ココロも満タンに”宣言”」活動に取り組んでいます。

詳細情報：“ココロも満タンに”宣言
<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/mantan/>

“ココロも満タンに”宣言

コスモグループの約束

お客様の“ココロも満タンに”を実現させるために、以下の3つをお客様との約束(ブランドプロミス)として取り組みます。

心地良さ クリナップの行き届いた店舗で笑顔と挨拶で対応します。

安心感 品質の確かな商品とサービスを提供します。

信頼感 お客様からのご質問に対し、責任を持ってお答えします。

3つの約束診断

カスタマーセンター

コンプライアンスの徹底と環境への配慮

CSR診断

コスモ石油エコカード基金

BCPへの取り組み

お客様のカーライフ価値提供業

ブランドプロミスである「心地良さ」「安心感」「信頼感」のもと、お客様の多岐にわたるカーライフニーズに応えるべく、燃料油を中心とした石油流通業からトータルカーライフでの価値提供業への変革をめざしています。

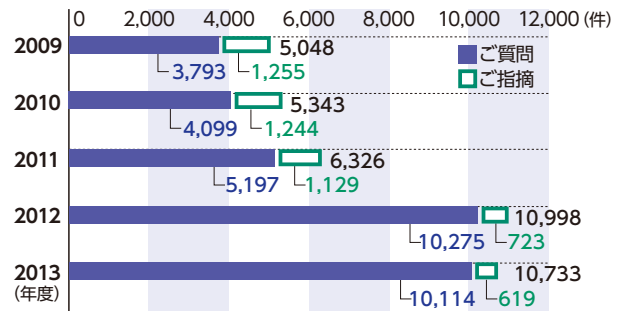
お客様サポート体制の充実

お客様との双方向コミュニケーションを目的に「コスモ石油カスタマーセンター」を開設し、電話によるお問い合わせ受付の24時間化を2010年から実施しています。

2013年度は、お問い合わせ件数はほぼ横ばいでしたが、「ご指摘」の件数は104件(前年比約15%)減少し619件となりました。

関連情報：お問い合わせ
<https://www.cosmo-oil.co.jp/contact/>
 フリーダイヤル 0120-530-372

お問い合わせ件数 ☑



※ 2011年度の件数は、震災関連を除いています。

カスタマーセンターに寄せられた声

お客様の言葉

夜9時頃に給油に行った際、夜間帯にも関わらずスタッフが外へ出てきて、退店する車1台1台にお辞儀する姿を見て感激し、とてもいい気持ちになりました。

<お客様の言葉に対して運営者より>当該スタッフは日頃からお客様に喜んでいただけるよう努めていますが、このようなお声をいただき大変嬉しく思います。

ご指摘

わざわざフルサービスSSに行ったのに、挨拶も誘導もなくスタッフ3人で話をしており、愛想も悪く残念だった。

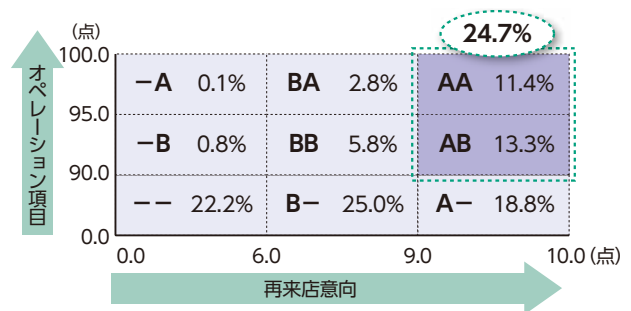
<ご指摘に対して運営者より>ご指摘いただいた時の様子を防犯カメラで確認しました。全スタッフに指導と注意を促します。

覆面モニターによる「3つの約束診断」

お客様との3つの約束、SSにおける「心地良さ」「安心感」「信頼感」が各SS店頭で忠実に実践されているかを確認するため、お客様目線でチェックする覆面モニター調査を実施し、お客様の満足度の確認と向上に努めています。

2013年度より評価方法を一新し、再来店意向に関連する項目を重視した方法に変更しました。2,144SSで実施し、24.7%のSSが非常に高い再来店意向度とオペレーション評価(ともに9割以上の得点)を獲得しました。

2013年度「ココロも満タンに」宣言3つの約束診断結果 ☑



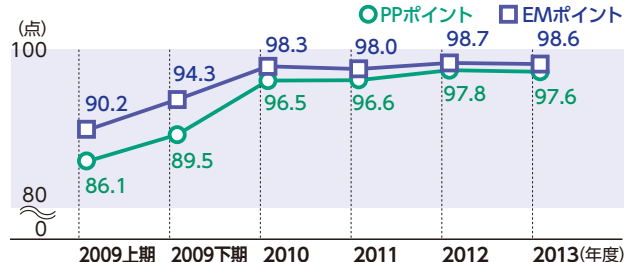
SSにおける「CSR診断」

SSを取り巻くさまざまな法令の遵守状況等を確認するため、個人情報保護(PP)調査や環境管理(EM)調査などのCSR診断を毎年実施し、改善を図っています。

2013年度は1,174のSSに調査員が訪問して調査しましたが、その他1,800を超えるSSが自己診断を実施しました。

関連情報：情報管理
<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/social/customer.html>

PPポイント・EMポイントの推移 ☑



※ ポイントが高いほど評価も高くなります。

人権／人事施策の充実

人権尊重・働きやすい職場づくり

「連結中期人権／人事計画(2013年度～2017年度)」では、「業務の効率化と労働時間の適正管理」「ワーク・ライフ・バランス」「多様性の尊重」「心身の健康維持・向上」「パワハラ・セクハラ撲滅」の5項目をテーマに掲げ、コスモ石油グループ社員がより働きやすい職場になるよう取り組んでいます。

詳細情報：人事計画
<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/social/employee.html>

グローバル人材育成

コスモ石油グループ社員は、世界8ヵ国、109名が海外に駐在しています。業務内容としては、資源開発、原油・石油製品の売買取引、プロジェクト(石油化学事業、ALA事業等)に大きく分けられます。「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」をめざすコスモ石油グループにとって、国内外のさまざまな案件に対応できる人材の育成は急務です。現在も多くの社員が海外駐在をしていますが、これからの多様な経験・スキルを持ったグローバル人材を育成するため、海外事業所に若手・中堅社員を積極的に派遣し実務を積ませ、いつでも海外で活躍できる人材を増やしていく方針です。

2013年度 国別海外駐在者数 ①
 2014年3月31日現在

国	駐在者数
UAE	75
バーレーン	1
カタール	16
中国	2
米国	3
イギリス	2
シンガポール	3
韓国*	7

2009年度～2013年度
 海外駐在者数の推移

年度	海外駐在者数
2009	84
2010	91
2011	89
2012	94
2013	109

* 駐在者数は、コスモ石油出向者数にコスモ石油・CEC・CTS・総研のプロパー社員を含みます。

* HCP出向社員の声 → P12

多様性の尊重・機会均等

「公正な雇用の継続」をテーマとし、「障がい者雇用率の維持向上」を目標に取り組んだ結果、2013年度の障がい者雇用率は2.07%と法定雇用率(2.00%以上)を達成しました。今後も多様な人材がそれぞれの能力を存分に発揮できる職場環境の構築をめざし、施策を展開していくことで、障がい者雇用率の維持向上に努めます。

障がい者雇用(厚生労働省届出値) ①

	2010年 6月	2011年 6月	2012年 6月	2013年 6月	2014年 6月
障がい者雇用人数	46名	45名	46名	41名	39名
(内、重度障がい者人数)	25名	23名	23名	21名	20名
障がい者雇用率*	2.1%	2.1%	2.3%	2.1%	2.07%
法定不足人数	0名	0名	0名	0名	0名

* 法定雇用率2.00% (小数点第2位以下は四捨五入)

* コスモ石油単体、いずれも6月1日時点

コスモプロジェクトの発足

コスモ石油グループでは、女性の活躍推進を最重要課題のうちのひとつとらえています。2014年1月には、さまざまな部署の女性社員11名で構成されたプロジェクトチームを結成し、女性活躍推進策を会社に提言する「コスモプロジェクト」を発足しました。

コスモプロジェクトでは、社員全員がいきいきと働き、活躍し続けることができる環境づくりを目標に活動していきます。

* 2014年2月にはステークホルダーダイアログを実施しました。→ P27～28



ワーク・ライフ・バランスの支援

「第3次連結中期人権/人事計画」では、「職場と家庭の両立支援」の重点テーマとして「育児・介護休職推進、余暇活動支援」を定め、併せて支援を充実させるためのさまざまな制度の整備に力を入れています。誰もが働きやすい明るい職場づくりを進め、社員一人ひとりの価値観・人生観を尊重し、自らの希望する働き方を実現できるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮したさまざまな取り組みを推進しています。

次世代育成支援策として「第5期一般事業主行動計画（2013年度～2014年度）*」を厚生労働省に提出しました。

* 一般事業主行動計画：労働者の子育て支援策や労働条件の整備策について、期間、目標、実施時期を定めた計画

育児休職取得者数

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
男性	2名	1名	2名	4名
女性	9名	12名	15名	17名

VOICE 在宅勤務利用者の声

コスモ石油株式会社 堺製油所 生産管理課*
藤井 敦夫



在宅勤務をはじめたきっかけは、産前・産後に体調を崩しやすかった妻の育児サポートをするためでした。私の選択を受け入れてくださった職場の皆様には感謝しています。

在宅勤務は、週1回、通勤や昼休みの時間を家事や育児の時間として活用でき、育児世代にはありがたい制度です。また、在宅でできる業務とできない業務が明確となるため、出社時に完了させるべき項目を早めにこなすなど、よりスケジュールを意識して業務に取り組むようになりました。

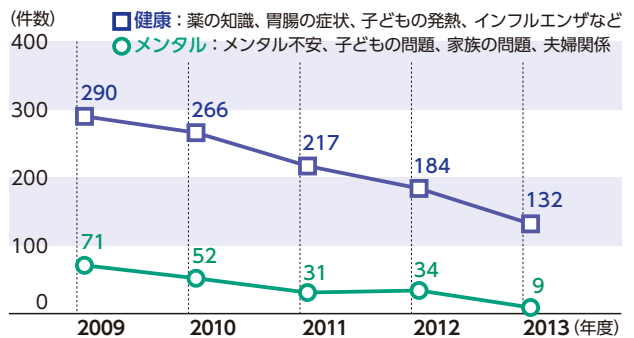
これを機に、業務効率化にも取り組み、仕事と育児の両立を果たしていきたいです。

* 所属は2014年3月末日時点

心身のヘルスケア

コスモ石油グループでは特定健康診断に関して、コスモ石油健康保険組合と連携し本格的に取り組んでいます。コスモ石油健康保険組合では、精神科医・心療内科医をはじめとする専門スタッフによる電話健康相談「健康・こころオンライン」を常設し、社員およびその家族のさまざまな相談に対し、即時に責任ある回答ができるよう対応しています。

「健康・こころオンライン」相談件数



長時間労働の削減への取り組み

社員のワーク・ライフ・バランスおよびヘルスケア増進のため、コスモ石油グループでは、時間外労働時間の限度時間を月間、年間、それぞれの期間単位で定めています。「連結中期人権/人事計画」において「年間総労働時間の削減」を目標とし、個別事案の改善に取り組みましたが、供給体制の見直し等の影響により超過勤務が発生したことが要因で、2013年度は多くの指標で前年を上回る結果となりました。

年間総労働時間

	2012年度	2013年度
年間総労働時間	1,954時間	1,966時間
所定労働時間*	1,817時間	1,817時間
目標総労働時間	1,900時間	1,900時間

* 日勤者平均

社員全員が十分に能力を発揮できる 職場環境を実現するために

コスモ石油グループではまだ比率の低い女性社員の意見に耳を傾け、女性社員自身で「会社のあるべき姿」を検討するため、「コスモプロジェクト」を発足しました。コスモプロジェクトは、2014年7月末にコスモ石油に必要とされる“女性活躍推進策”をとりまとめ、会社へ答申するため、2014年1月よりミーティングやヒアリングなどを実施しました。

活動初期にあたる2014年2月12日に、田辺三菱製薬労働組合 中央副執行委員長で、JEC連合 男女共同参画推進室の福田明子さんをお招きし、コスモプロジェクトの活動に際して、女性の活躍に関する意見交換をさせていただきました。

※ 社員に対しヒアリングを実施している関係で、発言者の実名は伏せさせていただきます。



会社としてメッセージを発信することで 女性活躍推進の浸透を

【A】 福田さんは、社会において女性が男性と同等に活躍するには、家庭内における男女の役割の差も埋めていく必要がある、とお話をされていました。

【福田さん】 職場は、家庭内での男女の不平等をカバーする場ではないと感じています。例えば、保育園児のお迎えを毎日女性(母親)が行っていて、そのために早く帰宅しなければいけない、というようなパターンです。夫、家族、地域社会を活用し、家庭の男女参画をした上で、会社の制度を利用するべきだと思います。

【B】 家庭での男女参画を明文化すべきですか。

【福田さん】 会社側からの「女性活躍」に関するメッセージはいつ頃出されるのでしょうか。明文化するのであればよいタイミングだと思います。

【A】 コスモプロジェクトの答申には、女性活躍に関するトップメッセージを出して欲しいという施策を含めたいと考えていますが、具体的には会社が決定します。



【福田さん】 会社からのメッセージはとても重要です。田辺三菱製薬で、女性の活躍の推進活動を実施したときに、女性社員から「会社は私たちに働き続けて欲しいと、本当に思っているのでしょうか?」という声がたくさん出ました。会社は辞めて欲しくないと思ってプロジェクトを実施しているのに、当の女性たちの感じ方は違っていました。会社の思いを明確に打ち出したほうが良いと思います。田辺三菱製薬の営業部門の場合ですと、支店長会議で毎回プロジェクトの状況を報告し、所長から女性だけではなく、全社員に説明してもらうことを何回も繰り返して、女性に働き続けて欲しいと願う会社の思いが伝わりました。制度づくりに5年、浸透に2年かかりました。

会社で家庭のことを話せる環境づくりには 意識改革が必要

【福田さん】 今でも日本の会社には、家庭のことを会社に持ち込んではいけないという美学がありますよね。

【C】 仕事の間では、家庭のことは言い訳にしかならないと思っていました。

【福田さん】 それは意識改革が必要だと思います。家庭の事情により、自分だけでは仕事を抱えきれないという状況になった場合だけ、周囲に申し出るという風土ですか。

【E】 そうですね、子どもが病気などで入院するというような状況でないとなかなか言えません。

【F】 就業後の飲み会などで身の上話になることはありますが、仕事で周りに迷惑がかからないうちは出てきませんね。

【G】 普段から家庭の話聞いていけば、いざ休まれた時でも、心構えができるので私は言うて欲しいと思いますが、自分が言えるかどうかはわかりません。



【福田さん】 このテーマで話をすると、“言わないといけない”という流れになるので、プライベートや家庭のことは言えませんというのは意外でした。

【C】 最近は男性社員でも、子どもが生まれるので休みますというメールがきます。おめでとくと祝う気持ちにはなっても、嫌な気分になることはありませんので、どうして言わないのでしょうか。

【D】 最小限の人数で仕事をしている場合には、この人がいないと困るということはありませんね。

ヒアリングで得た生の声を大切にしつつ 女性にどのように活躍して欲しいかを考える

【H】 このコスモプロジェクトで各事業所にヒアリングに行きましたが、立場が違くとそれぞれ違う意見が出てきます。

【E】 例えば、育児や介護中で時間に限りのある社員を、周囲がフォローしている場合です。繁忙期には、フォローする側の業務量が増えるケースもあります。

【福田さん】 ヒアリングで生の声を聞くのはすばらしいです。でも、聞いた人の背景も理解する必要があります。

【H】 まだ立ち上げの段階ですので、どう整理すればよいのか迷う部分があります。

【福田さん】 すべての意見が包含されることは難しいので、しっかり議論をして、どこに重点を置くのか考えないといけないですね。

【I】 女性のなかでは、現状で満足しているという人もいます。

【福田さん】 それは私にもよくわかります。田辺三菱製薬の広島支社で19年事務をしていた時に、チャレンジングな仕事を任せてもらえないという状況に納得するためには、そう自分に言い聞かせるしかありませんでした。

【C】 地方と東京の差をヒアリングで感じました。状況を変えようとする、東京で考えたことだけが実行され、地方の方の希望を置き去りにしてしまうようにも思えます。

【福田さん】 その考えはとても大切です。会社が女性にどのような働き方を望んでいるのかを考えてください。全員が管理職になってもらいたいわけではなく、今の仕事をしっかり行う人も必要ですね。今いるところから、一歩二歩進む人がいても、五歩進む人がいてもいいのです。五歩進みたい人がいれば、それができるようにすることが重要です。コスモプロジェクトのメンバー自身が、コスモ石油グループで働く女性に対しどのように活躍して欲しいのか、それを考えて活動してください。



Topics トップ層研修の実施

コスモ石油では、毎年、コスモ石油役員、関連会社役員および本社部長に、人権・人事施策に対する意識向上のため、トップ層研修を実施しています。連結中期人権・人事計画の目標で掲げている「女性がいきいきと活躍できる会社づくり」の理解のため、2014年4月9日に、三菱UFJリサーチ&コンサルティング 女性活躍推進・ダイバーシティマネジメント戦略室 室長 矢島洋子さんをコスモ石油本社にお招きし、「女性社員の活躍推進～「両立」から「活躍」へ～」というタイトルで講演いただきました。

コスモプロジェクトのメンバーも講演を聞き、女性活躍推進の第一人者である矢島さんに積極的に質問をしました。



環境対応策の推進

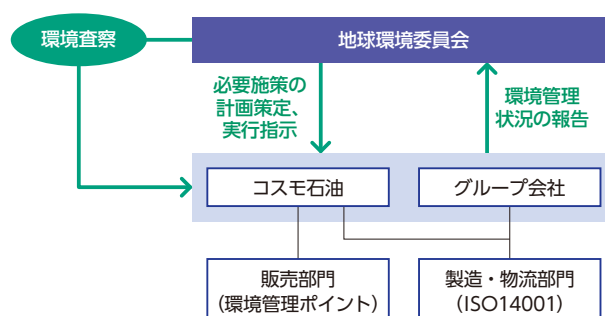
環境への取り組み

コスモ石油グループでは、2002年度より環境にスポットをあてた取り組みの強化を開始しました。「連結中期環境計画（2013年度～2017年度）」では、引き続き、「事業継続を踏まえた地球温暖化への戦略的対応」「環境負荷の低減」「環境貢献活動の推進」の3項目をテーマに掲げ、コスモ石油グループの社会へのメッセージスローガン「ずっと地球で暮らそう。」を実現すべく活動しています。

環境管理体制

コスモ石油グループでは、環境負荷の大きい事業所を中心に、各製油所を含む10事業所でISO14001認証を取得しています。内部監査を実施するとともに、審査登録機関による外部審査も受け、環境マネジメントシステムが確実に機能しているかどうかを定期的に確認しています。また、部門横断的な組織とした、「地球環境委員会」を中心に環境管理体制を構築し、「地球環境委員会」が連結中期環境計画の立案・実績報告・評価などを実施し、各事業部門にフィードバックしています。

環境管理体制図



連結中期環境計画（2013年度～2017年度）

テーマ① 事業継続を踏まえた、地球温暖化防止への対応	テーマ② 環境負荷の低減	テーマ③ 環境貢献活動の推進
(1) CO ₂ 削減に向けた取り組み (2013年度～2017年度 2010年度比▲85.3万t-CO ₂) (2) 温室効果ガスの排出管理 (省エネ法に適合したエネルギー管理)	(1) 事業活動における環境課題への適切な対応 (2) 産業廃棄物の削減 (3) 環境管理における内部監査・外部監査の充実 (4) 土壌環境対応の徹底 (5) エコオフィス活動の推進・グリーン購入の推進	(1) 環境コミュニケーションの継続 (2) 生物多様性保全の推進

産業廃棄物の削減

コスモ石油(株)では、各製油所・油槽所・中央研究所から排出される産業廃棄物最終処分率を0.5%未満に保つという目標を掲げ、廃棄物の削減に継続して取り組んでいます。2013年度は、0.35%と目標を達成できました。

2013年度 産業廃棄物の最終処分率 ⑦

	目標	実績
コスモ石油計	0.5%未満	0.35%
コスモ石油グループ計	—	4.01%

※ 各グループ会社で発生する産業廃棄物の種類や量が異なり、目標策定が困難なため、コスモ石油グループ計の目標を設定していません。

土壌環境対応の徹底

土壌汚染の未然防止と、万が一油分が漏洩した場合の迅速かつ適切な対応のため、コスモ石油グループ内におけるSSや事業所の土壌調査を実施しています。また必要に応じて、環境影響に応じた土壌浄化、モニタリングを実施しています。

累計調査SS数 ⑦



地球温暖化防止への取り組み

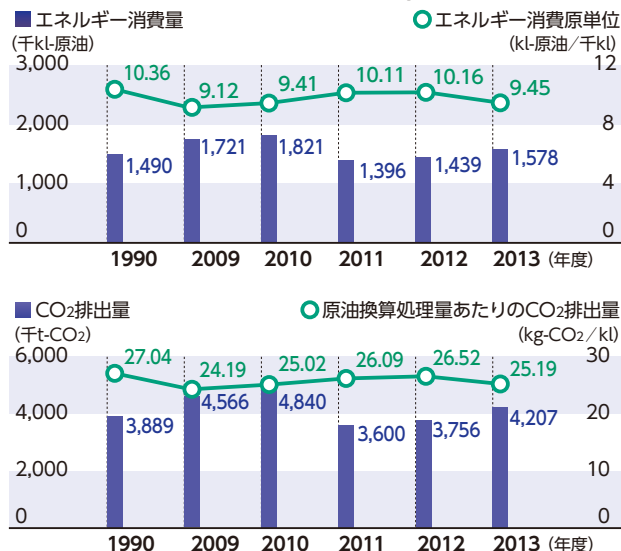
製造部門の省エネルギー

コスモ石油グループのCO₂排出量の約6割を占める精製部門では、ハード面(高効率機器の導入)、ソフト面(運転効率の改善)の両面から省エネルギーに努めています。

2013年度は、コスモ石油グループの効率的な装置運用の見直しや千葉製油所の生産量が回復したことが、エネルギー消費原単位*と原油換算処理量あたりのCO₂排出量改善に寄与しました。エネルギー消費量とCO₂排出量が増加していることは、2011年より稼働をほぼ停止していた千葉製油所が再稼働したことが影響しています。2010年度と比較すると、坂出製油所の精製装置停止やその他の製油所における省エネ施策により633千t-CO₂のCO₂排出量を削減しています。

* 製油所の総エネルギー消費量を精製技術の複雑度を考慮した原油換算処理量で割った値で、単位は、kl-原油/千klで表します。総エネルギー消費量は、熱や電気などの各種エネルギーの使用量を原油換算し、単位はkl-原油です。

4製油所のエネルギー消費量とCO₂排出量 ⑦

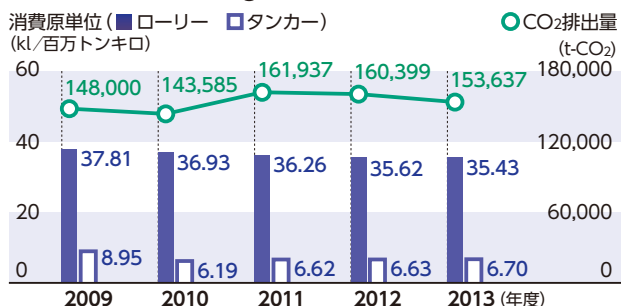


※ 図に示したほかに、触媒再生塔から一酸化二窒素(N₂O)が18千t-CO₂eq発生しています(2013年度)。

輸送部門の省エネルギー

コスモ石油グループでは、船舶とローリーの大型化と積付率の改善に継続して取り組み、省エネルギー化を図っています。内航タンカーによる海上輸送では、千葉製油所の再稼働で製油所間の輸送数量が減ったことにより、消費原単位*は6.70kl/百万トンキロ(前年度比-0.07kl/百万トンキロ)と悪化してしまいました。ローリーによる陸上輸送では、1台あたりの輸送量は19.12klと前年度と同水準でしたが、輸送効率化の強化策により、消費原単位は35.43kl/百万トンキロ(前年度比+0.18kl/百万トンキロ)と改善しました。

輸送部門の省エネルギー ⑧



* 輸送におけるエネルギー消費原単位として、エネルギー使用量(原油換算kl)を輸送トンキロ(輸送した貨物の重量(トン)に貨物の輸送距離(km)を乗じたもの)で割った値を採用しています。単位はkl/百万トンキロで表します。

オフィス部門の省エネルギー

コスモ石油グループでは、オフィスの省エネ・省資源活動を推進しています。コピー用紙、社有車燃料、オフィス電力の使用量削減、事務用品のグリーン購入の4項目に対し、各事業所で実績を把握し、年度目標を達成できるよう、各事業所・関連会社ごとに推進策を展開しています。

評価基準:

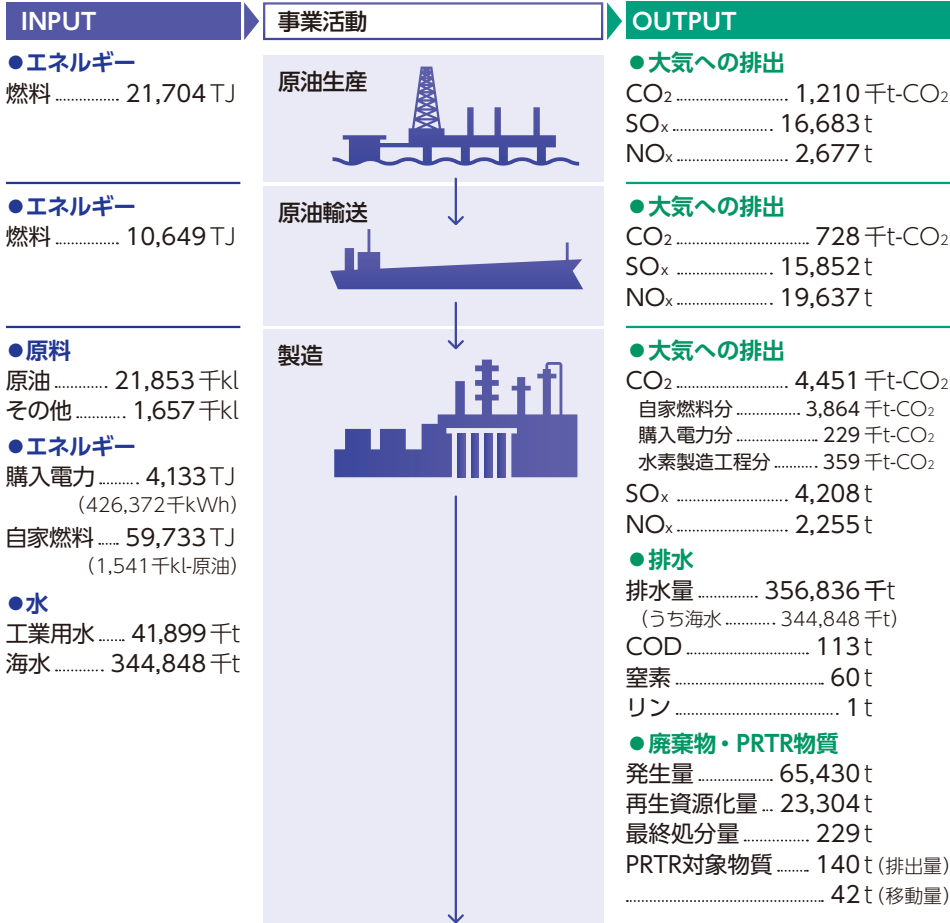
【コピー用紙・社有車燃料・オフィス電力】
○:目標達成 △:目標未達成だが前年比減 ×:目標未達成
【グリーン購入】○:70%以上 ×:70%未満

2013年度通期 エコオフィス・グリーン購入実績報告 ⑨

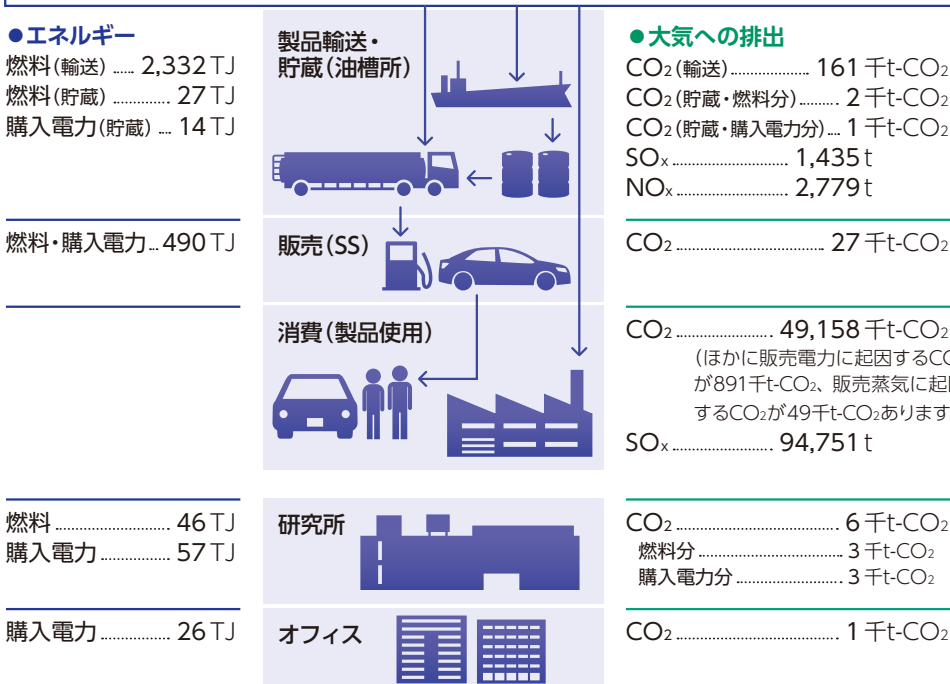
取り組み項目	単位	対象範囲	目標	実績	目標比	評価
コピー用紙	万枚	コスモ石油	1,132	1,009	-10.9%	○
		グループ会社	1,888	1,899	+0.6%	△
社有車燃料	千l	コスモ石油	206	178	-13.5%	○
		グループ会社	783	705	-10.0%	○
オフィス電力	千kWh	コスモ石油	740	682	-7.8%	○
		グループ会社	1,799	1,616	-10.2%	○
グリーン購入(購入率)	%	コスモ石油	70.0	89.4	-	○
		グループ会社	70.0	77.9	-	○

事業活動における環境負荷

2013年度の環境負荷状況



製品	製品生産量	回収硫黄	販売電力	販売蒸気	販売CO ₂
	22,779 千kl	214 千t (副産物として)	1,319,966 千kWh	973 TJ	90 千t-CO ₂



○「原油生産」「原油輸送」「製品輸送・貯蔵(油槽所)」「SO_x、NO_xのみ」は、(一財)石油エネルギー技術センター(JPEC)の2000年3月「石油製品油種別LCI作成と石油製品環境影響評価」にもとづく推計です。

○「製造」以降のエネルギー消費量は、エネルギー使用の合理化に関する法律(省エネ法)の規定にしたがって算定しています。

○「製造」「製品輸送」「販売SS」(コスモ石油販売(株)のデータ)のCO₂は、環境省・経済産業省の「温室効果ガス算定・報告マニュアル」にしたがい算定しています。

○「製造」には、コスモ石油製油所、四日市霞発電所、コスモ松山石油(株)、コスモ石油レプリカント(株)のデータを含みます。なお、コスモ石油レプリカント(株)の水関連データ、NO_x、SO_xは含まれていません。

○「廃棄物」には、事業活動に伴って発生したもので、有価で売却されたものも含みます。

○販売電力とは、千葉製油所、四日市霞発電所およびコスモ松山石油(株)から外部供給した電力のことです。「製造」からのCO₂は、この販売電力分のCO₂を差し引いたものとなっています。逆に購入電力分のCO₂は「製造」に含んでいます。

○販売蒸気とは、千葉製油所およびコスモ松山石油(株)から外部供給した蒸気のことです。「製造」からのCO₂は、この販売蒸気分のCO₂を差し引いたものとなっています。

○「製品輸送」のCO₂は省エネ法で定める特定荷主を対象としています。

○「消費(製品使用)」のCO₂では、ガソリンや重油など燃料として使用する製品の出荷量にCO₂排出係数を乗じて算定しています。ほかに販売電力、販売蒸気に起因するCO₂を別集計しています。

○「消費(製品使用)」のSO_xは参考値です。製品の硫黄分から算定した潜在SO_x量であり、お客様使用時の脱硫による低減は考慮していませんので、実際のSO_x排出量はこれより低い数値になります。

○「研究所」には、コスモ石油(株)の中央研究所およびコスモ石油レプリカント(株)の商品研究所を含みます。

○「オフィス」には、コスモ石油本社および支店のデータを含みます。

○コスモ石油グループの事業活動におけるScope1は、3,896 千t-CO₂、Scope2は、314 千t-CO₂です。

 **詳細情報**
事業所別パフォーマンスデータ
<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/site/>
石油ライフサイクルインベントリ(LCI)
<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/lca.html>
環境会計
http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/ev_accounting.html

グループ内および社会とのコミュニケーション活動の推進

社会とともに進める環境活動

「コスモ アースコンシャス アクト」クリーン・キャンペーン

コスモ石油グループは、2001年より開始した地球環境の保護と保全を呼びかけていく活動「コスモ アースコンシャス アクト」の一環として、海・山・川などで自然と親しみながら清掃を行う「クリーン・キャンペーン」を全国展開しており、13年間で、延べ514ヵ所を清掃し、参加者201,883名の方々にご協力いただき、総量5,353,617リットルのごみを回収しました。毎年夏には「クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI」を実施しています。2013年度は富士山の清掃とエコトレッキングを行い、総勢187名で20,475リットルのごみを回収しました。



活動スケジュール・報告

コスモ アースコンシャス アクト(公式サイト)

<http://www.tfm.co.jp/earth/>

コスモ アースコンシャス アクト(Facebook)

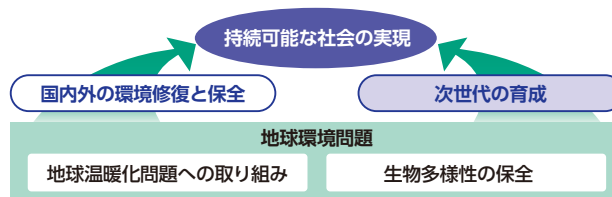
<http://www.facebook.com/earth.act/>

コスモ石油エコカード基金

コスモ石油エコカード基金では、かけがえのない地球環境を次世代を生きる子どもたちに残すため、カード会員の皆様からのご協力をもとに「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを展開しています。約7.3万人の会員の皆様に支えられ、2014年度で12年目に突入しました。会員の皆様からお預かりした大切な寄付金を環境問題の解決のために活用し、「環境修復と保全」「次世代育成」をテーマとした環境保全活動を支援していきます。

2013年度は、14のプロジェクトを実施しました。詳しい実施内容については「コスモ石油エコカード基金活動報告書2014」で報告しています。

関連情報：コスモ石油エコカード基金活動報告書2014
<http://www.cosmo-oil.co.jp/company/publish/ecoreport/index.html>



2013年度のプロジェクト

1 熱帯雨林保全 (バブアニューギニア)	8 野口健 環境学校 (日本国内)
2 熱帯雨林保全 (ソロモン)	9 種まき塾 (北海道)
3 シルクロード緑化 (中国)	10 どんぐりの森 里山再生 (長野県)
4 南太平洋諸国支援 (キリバス)	11 ビオトープ浮島 水辺の生態系回復(埼玉県ほか)
5 南太平洋諸国支援 (ツバル)	12 南太平洋諸国生態系保全 (日本・南太平洋諸国)
6 秦嶺山脈 森林・生態系回復 (中国)	13 ムササビとともに暮らす 里山再生(山梨県)
7 さとやま学校 (長野県)	14 東日本大震災復興支援 森は海の恋人(宮城県)

「コスモの森」里山保全活動

コスモ石油は、事業所周辺の里山を「コスモの森」として自治体より借り受け、里山を整備・保全し、次世代に残す活動に取り組んでいます。堺製油所とコスモ松山石油(株)では毎年2回「コスモの森」里山保全活動を実施しており、コスモ石油社員とその家族が参加し里山保全活動を行っています。千葉製油所では「コスモの森」を活かし、地元の子どもの対象にした活動を年間を通じて実施しています。



さまざまな社会活動

国連グローバル・コンパクトへの参加

コスモ石油グループは、国連が提唱するグローバル・コンパクトに2006年から参加しており、人権・労働・環境・腐敗防止にかかわる10原則を支持することによって、国際的な視点を採り入れ、CSR経営を推進する企業姿勢を社会に対しコミットし、CSR活動のさらなる向上をめざしています。



人権	原則 1：人権擁護の支持と尊重 原則 2：人権侵害への非加担
労働	原則 3：組合結成と団体交渉権の実効化 原則 4：強制労働の排除 原則 5：児童労働の実効的な排除 原則 6：雇用と職業の差別撤廃
環境	原則 7：環境問題の予防的アプローチ 原則 8：環境に対する責任のイニシアティブ 原則 9：環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則 10：強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

諸外国との技術交流を実施

コスモ石油海外技術協力センターは、産油国と技術協力事業ならびに研修事業を中心とした技術交流を通して友好関係の維持・発展に努め、相手国から高い評価をいただいています。なお、事業の実施に際しては、(一財)国際石油交流センター(JCCP)などの補助金制度も活用しています。

2013年度の主な活動として、技術協力事業では、JCCPの「産油国石油産業等基盤整備事業」に参加し「オマーン国製油所の環境対応に向けた設備および運転改善に関する技術指導」を実施しました。研修事業に関しては、UAE、カタール、オマーン、ベトナムの4カ国6機関に対し、受入6件、派遣1件の研修を実施しました。その他JCCP直轄研修において5件の講義を引き受けました。

2013年度 海外技術協力 研修事業一覧 ①

受入研修		
国名	研修内容	研修回数
UAE	精製技術	1件
カタール	上級管理職研修など	4件
ベトナム	環境管理	1件
合計		6件

派遣研修		
国名	研修内容	研修回数
オマーン	設備保全と安全運転	1件
合計		1件

主な社会貢献活動

コスモ石油は、経営理念のひとつである「企業と社会の調和と共生」にもとづき、「未来の社会をつくる子どもたちの啓発」「地球環境の保全」「文化的社会の構築」をコンセプトとして社会貢献活動に取り組んでいます。

1993年から車社会への貢献として交通遺児の小学生を対象に、環境の大切さを考える機会の一助となることをめざして、自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊」を実施しています。コスモ石油では、これからもさまざまな社会貢献活動を推進していきます。



「コスモわくわく探検隊」キャンプの様子

2013年度 社会貢献活動一覧

主催プログラム	活動内容	開催日
第21回コスモわくわく探検隊	交通遺児の小学生を対象とした自然体験プログラム	2013年8月8日～8月10日(2泊3日)
楽器とあそぼう! コスモファミリーコンサート	事業所のある地域の皆様を対象とした「参加」して楽しめるコンサートプログラム	2014年1月25日(四日市)
コスモクリスマスカード・プロジェクト 2013	入院中の子どもたちにメッセージをそえたクリスマスカードを贈るプロジェクト	2013年11月～12月
Jazz Night @ 魚籃寺 チャリティー・ジャズ・コンサート	入院中の子どもに付きそ家族のための宿泊施設「ファミリーハウス」を支援するチャリティー・コンサート	2013年9月6日
コスモ絵かきつず	児童養護施設で実施するグループ社員による手作りワークショップ	2013年11月30日
ハッピードール・プロジェクト	入院中の子どもたちと創作活動をするプロジェクト	2013年3月28日
献血活動	社員による献血活動	2013年9月2日、2014年2月25日/コスモ石油本社ほか、各事業所にて実施

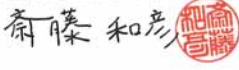
第三者保証報告



独立した第三者保証報告書

2014年8月12日

コスモ石油株式会社
代表取締役社長 森川 桂造 殿

KPMG あずさサステナビリティ株式会社
東京都千代田区大手町1丁目9番2号
代表取締役 

当社は、コスモ石油株式会社(以下、「会社」という。)からの委嘱に基づき、会社が作成したコーポレートレポート2014(以下、「コーポレートレポート」という。)に記載されている2013年4月1日から2014年3月31日までを対象とした^①マークの付されている環境・社会パフォーマンス指標(以下、「指標」という。)に対して限定的保証業務を実施した。

会社の責任
環境省の環境報告ガイドライン2012年版及びGlobal Reporting Initiativeのサステナビリティ・レポートガイドライン第3版等を参考にして会社が定めた指標の算定・報告基準(以下、「会社の定める基準」という。コーポレートレポートに記載。)に従って指標を算定し、表示する責任は会社にある。

当社の責任
当社の責任は、限定的保証業務を実施し、実施した手続に基づいて結論を表明することにある。当社は、国際監査・保証基準審議会の国際保証業務基準 (ISAE) 3000「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」(2003年12月改訂)、ISAE3410「温室効果ガス情報に対する保証業務」(2012年6月)及びサステナビリティ情報審査協会のサステナビリティ情報審査実務指針(2012年12月改訂)に準拠して限定的保証業務を実施した。

本保証業務は限定的保証業務であり、主としてコーポレートレポート上の開示情報の作成に責任を有するもの等に対する質問、分析的な手続等の保証手続を通じて実施され、合理的保証業務における手続と比べて、その種類は異なり、実施の程度は狭く、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。当社の実施した保証手続には以下の手続が含まれる。

- コーポレートレポートの作成・開示方針についての質問及び会社の定める基準の検討
- 指標に関する算定方法並びに内部統制の整備状況に関する質問
- 集計データに対する分析的な手続の実施
- 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施
- リスク分析に基づき選定した千葉製油所における現地往査
- 指標の表示の妥当性に関する検討

結論
上述の保証手続の結果、コーポレートレポートに記載されている指標が、すべての重要な点において、会社の定める基準に従って算定され、表示されていないと認められる事項は発見されなかった。

当社の独立性と品質管理
当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく独立性及びその他の要件を含む、国際会計士倫理基準審議会の公表した「職業会計士の倫理規程」を遵守した。

当社は、国際品質管理基準第1号に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

以上

第三者保証業務を終えて

レポートでは冒頭でコスモ石油グループの事業全体について説明し、特集で石油ガス開発に向けた提携や韓国におけるパラキシレン事業、風力発電事業などを紹介しており、コスモ石油グループの幅広い事業内容をバランスよく俯瞰していると考えます。しかし、取り組みに関する記載や実績データは石油精製・販売事業にやや偏っていると考えます。石油精製・販売事業以外の事業に関する取り組みの記載や実績データをさらに充実させることで、グループの全体像をより適切に伝えることができると考えます。

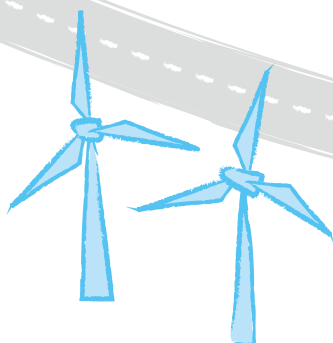
定量情報に関して言えば、近年、事業を通じて経済的価値と社会的価値を同時に創造するという「共通価値の創造(CSV)」の考え方に注目が集まっていますが、例えば、風力発電事業やバイオガソリンの供給などを通じてどれだけの

CO₂削減につながったのかということを定量的に示すことも可能であると考えます。

定性的な情報に関しても、例えば、「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」の実現に向け、海外事業所への従業員の派遣を増やす方針を示し、駐在者数を記載していますが、派遣の前に従業員に対してどのような教育を行っているかという定性情報も同じように重要ではないかと考えます。

KPMGあずさサステナビリティ株式会社
赤坂 真一郎





COSMO OIL CO., LTD.

コーポレートレポート2014の制作にあたり、以下の配慮を行っています。



水なし印刷
印刷工程において刷版の版材がインキをはじくという特性を利用し、水を使用せずに印刷する「水なし印刷」を採用しています。



non-vocインキの使用
脱石化素材によりVOC(揮発性有機化合物)成分ゼロを実現する環境調和型インキです。



カラーユニバーサルデザイン認証の取得
色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの方に美しく見やすい表示を心がけました。NPO法人カラーユニバーサル機構(CUDO)から認証を取得しています。